



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

第136回
日本森林学会大会
講演要旨集

2025 3.20-22

第136回日本森林学会大会プログラム

会 期 2025年3月20日～3月22日

会 場 北海道大学 農学部および学術交流会館（北海道札幌市北区北8条西5丁目）

公開シンポジウムは北海道大学 学術交流会館 講堂で開催し、インターネットで配信します。

大会日程

3月20日（木・祝）

9:15～9:45【開会式】

10:00～12:00【日本森林学会各賞授賞式・受賞者講演】

12:00～13:00【JFR編集委員会】

13:00～16:30【公開シンポジウム】北海道の広葉樹資源を活かす

18:00～20:00【懇親会】

3月21日（金）

9:00～12:00【研究発表】企画シンポジウム、公募セッション、部門別発表

12:00～13:00【学会企画】ランチョンミーティング

「選択的夫婦別姓制度の必要性を考える」

12:00～13:00【日本森林学会誌編集委員会】

13:00～14:00【研究発表】ポスター発表の質疑応答（対面会場）

14:15～18:00【研究発表】企画シンポジウム、公募セッション、部門別発表

17:00～19:00【学会企画】国際交流会

17:30～18:30【学会企画】JFRのData Noteに投稿しよう！

3月22日（土）

9:00～12:00【研究発表】部門別発表

12:00～13:00【森林科学編集会議】

12:00～14:00【研究発表】高校生ポスター発表コアタイム

13:00～14:00【研究発表】ポスター発表の質疑応答（対面会場）

14:15～16:00【学会企画】第12回高校生ポスター発表表彰式および
高校生対象の大学ツアー

14:15～18:00【研究発表】企画シンポジウム、部門別発表

15:15～16:15【学会企画】日林誌の使い方

16:30～18:00【閉会式】（学生ポスター賞受賞式）

配信について

【研究発表】

- ・ 口頭発表：大会終了後の一定期間、大会プラットフォーム”Clariss”にて参加者限定でオンデマンド配信します。
 - ・ ポスター発表：第136回大会のポスター発表形式は「オンライン」です。ポスターファイルは”Clariss”内に掲示します。3月13日（大会1週間前）から3月28日まで、参加者限定でオンデマンド閲覧が可能です。
-

主催 一般社団法人 日本森林学会

第136回日本森林学会大会運営委員会

渋谷正人（委員長）、加藤幸浩（副委員長）、齋藤哲（副委員長）、門脇大輔（副委員長）、庄子康、笠井美青、山田孝、森本淳子、宮本敏澄、斎藤秀之、桂真也、尾分達也、吉田俊也、小林真、大平允、長坂晶子、嶋瀬拓也、小長谷啓介、生方正俊、明石信廣、成田あゆ

連絡先

〒060-0809 北海道札幌市北区北9条西9丁目

第136回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: 136committee@forestry.jp

会場（農学部・学术交流会館など）



JR ご利用の場合：JR 札幌駅下車、徒歩7分で「正門」到着

地下鉄南北線・東豊線ご利用の場合：地下鉄さっぽろ駅下車、徒歩10分で「正門」到着
南北線北12条駅下車、徒歩7分で「正門」到着

※自家用車・レンタカーは大学構内に入構できません。

懇親会会場（サッポロビール園）



バス：（詳細は下記 QR コードを参照）

タクシー：札幌駅北口より約7分

JR：JR 苗穂駅北口より徒歩8分

苗穂駅は札幌駅の一つとなりの駅で、普通列車のみ停車します

地下鉄：東豊線東区役所前駅下車、4番出口より徒歩10分



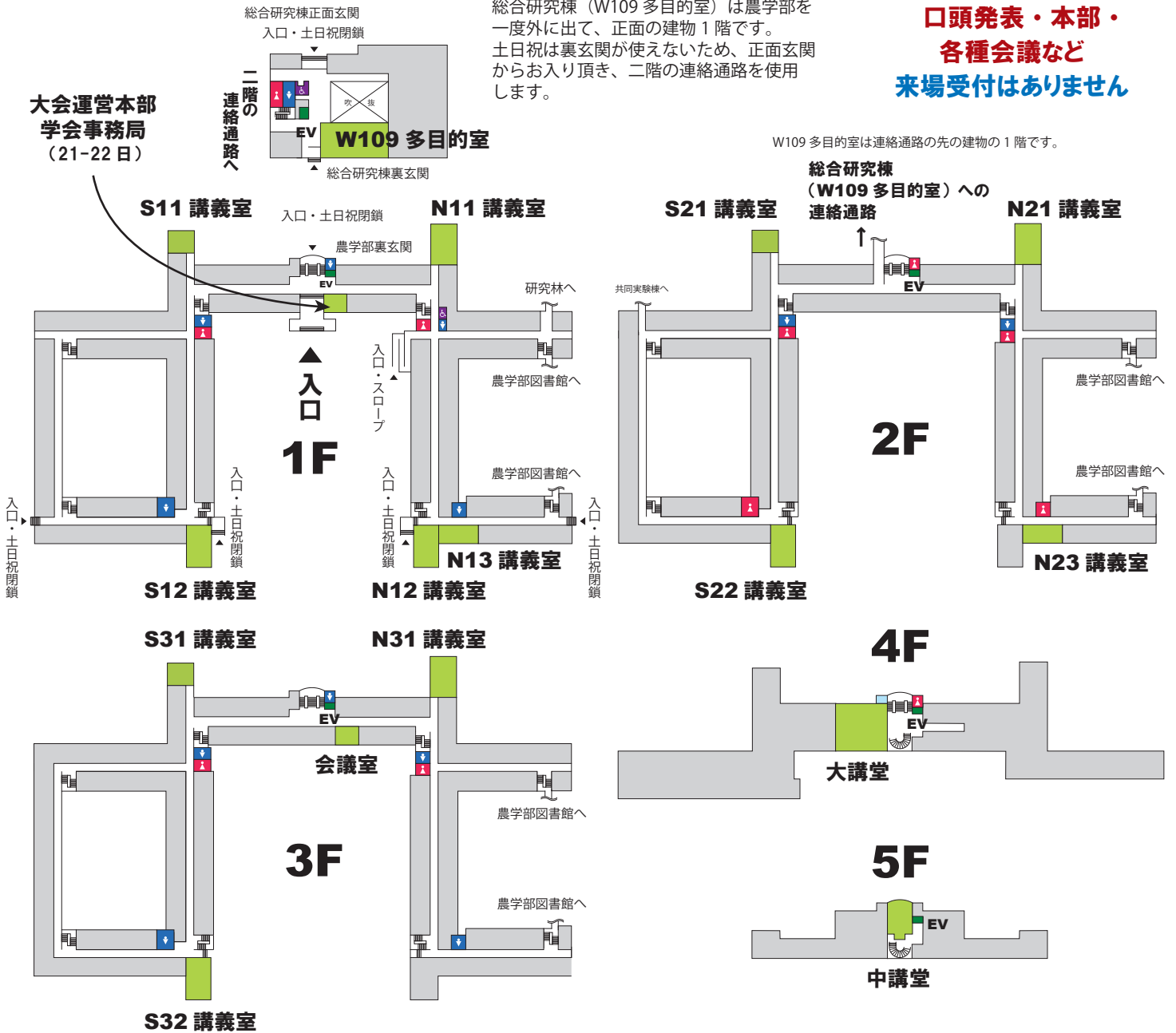
農学部会場

**口頭発表・本部・
各種会議など
来場受付はありません**

総合研究棟 (W109 多目的室) は農学部を一度外に出て、正面の建物1階です。土日祝は裏玄関が使えないため、正面玄関からお入り頂き、二階の連絡通路を使用します。

W109 多目的室は連絡通路の先の建物の1階です。

総合研究棟 (W109 多目的室) への
連絡通路



学術交流会館

**開会式・表彰式・
公開シンポジウム・
ポスター発表など
こちらで来場受付します**



大会に参加するみなさまへ – 参加申込と当日の受付等について –

○大会参加申込みは WEB 上の大会専用サイト内でのみ受け付けます。

参加費支払いは、クレジット決済となります。(2月21日(金) 17:00 までは郵便振替も可能です)。必ず事前に WEB 登録 (<https://www.forestry.jp/meeting/>) のうえ、名札を印刷してお越し下さい。

○大会会場の受付では当日参加の手続きはいたしません。参加費を当日現金で支払う事も出来ません。

○WEB 登録しないまま会場にいらした場合でも、ご自身の端末を利用した大会専用サイト内での参加登録とクレジットカード決済が必要です。確認に時間がかかりますので、必ず事前決済及び名札印刷をしてからお越し下さい。

当日の受付等について

- ① 事前に大会専用サイトにて、名札 (A4 サイズ) を印刷して、当日持参願います。
- ② 当日は学術交流会館の来場受付で、名札フォルダーを受け取り、印刷してきた名札を 4 つ折りにして、入れてください。来場受付は大会期間中、学術交流会館に設置します。
- ③ 会場では必ず名前が見えるように名札の着用をお願いします。名札のない場合はお声がけさせていただきます。
- ④ 名札を忘れた場合は、当日来場受付で対応可能です。ただし、RG で始まる参加受付番号、所属、氏名等は手書きしていただきます。印刷用のプリンターの設置はありません。
- ⑤ 受付では現金の取り扱いをいたしません。当日参加費を支払う場合は、事前登録と同じ大会専用サイト内でのクレジットカード決済になります。時間がかかりますので事前決済をお願いします。
- ⑥ 学会費未納の方には、発表会場で学会費支払依頼書をお渡しします。受け取りましたら当日中に学術交流会館受付近く (21 日以降は農学部棟内) の学会事務局にて手続きをお願いします。こちらは現金のみの取り扱いになります。大会終了までに学会費の納入が確認できない場合は、発表取り下げの扱いになりますのでご注意ください。
- ⑦ その他、ご不明な点は大会運営本部 (下記) までお問い合わせください。
 - ・ 3月20日 : 学術交流会館 1 階 第 2 会議室
 - ・ 3月21日-22日 : 農学部棟 1 階 正面玄関そば N103 特別会議室

第136回大会で発表・視聴される皆さまへの注意事項

<I. 口頭発表される方へ >

1. 口頭発表の方法

- 第136回北海道大学大会での発表・質疑応答は、大会会場（対面）で行われます。発表者が大会会場の外からオンラインで発表することはできません。会場での発表はライブ配信され、オンライン視聴者からの質疑はチャットでのみ対応します。また、発表は後日オンデマンドで配信されます。以上の前提のもとで発表者は以下の注意に従って対応してください。
- 口頭発表の機材は会場に設置したPC（Windows 11）（以下、「会場PC」）と液晶プロジェクタです。会場PCにインストールされているMicrosoft PowerPoint 2019（あるいはそれ以降のバージョン）またはAdobe Acrobatで発表していただきます。
- 会場PCからZoomで参加者に講演をライブ配信するため、**ご自身のPCやMacを液晶プロジェクタに接続することはできません**。後述するように、発表ファイルを事前に会場PCにコピーしていただきます。**それができなかった場合は講演できず、キャンセル扱いとなります。くれぐれもご注意ください。**

2. オンデマンド配信について

- 各講演は録画し、大会終了後の一定期間、大会プラットフォーム”Claris”にて参加者限定でオンデマンド配信します。（オンデマンド配信の期間は検討中です。）
- 発表録画のオンデマンド配信を避けるべき特段の事情（例えば特許関係など）のある発表者は、事情をプログラム編成担当者（program@forestry.jp）までお知らせください。その発表はオンデマンド配信の対象外といたします。文末の「IV 発表・視聴されるすべての方へ：著作権等に関する注意事項」もご確認ください。

3. 発表ファイルの形式、ファイル名の付け方

- 発表にはパワーポイントファイルまたはPDFを用いてください。パワーポイントのファイルの場合、Power Point 2019以降のバージョンで読み込めるようご準備ください。
- ファイル名は講演番号+筆頭者の名前としてください（例：S1-1 森林太郎.pptx）。
※ 講演番号については、大会プログラムをご参照ください。（大会プログラム（暫定公開版：2024年12月27日公開）に記載されている講演番号は、大会当日まで変更になることはありません。）

- 発表スライドの縦横比は4：3に設定してください。（機材トラブルを避けるため）
- 特殊なフォントは会場 PC にはインストールされていないため、該当しそうなフォントの使用は避けていただくか、またはフォント情報を埋め込んだ PDF に変換して用いてください
- Mac でパワーポイントファイルを作成される講演者は当日を迎える前にお手近の Windows PC の Microsoft PowerPoint で動作させ、文字化けやレイアウトのズレ等が生じていないかどうかをご確認ください。あるいは上述のようにフォント情報を埋め込んだ PDF に変換してください。

4. 発表ファイルの会場 PC への保存

- ファイルは発表する午前あるいは午後のセッションの開始 15 分前までに、会場 PC のデスクトップ画面にある日付と名前のついたフォルダー（例：21 日午前企画シンポ S1）に保存してください。
- ファイルの保存は、以下の2つの方法のどちらかをお使いください。今大会では、専用サイト等からの事前提出は受付けておりません。なお、SD カードのスロットはありません。
 - USB 接続可能なメディアにファイルを保存して持参し、会場 PC に接続・挿入してファイルをコピーする（推奨）
 - 会場 PC のブラウザ（Edge）から発表者の使用するクラウドサービス等にログインし、ダウンロードする
- ファイルを会場 PC に保存後、動作確認されることをお勧めします（特にアニメーション・動画の機能を使用される場合）。
- ファイルを保存したメディアは、ウイルスチェックも含め、ご自身で管理してください。会場設置のコンピュータからウイルスの感染が起こった場合でも、大会運営委員会は一切責任を負いませんのでご了承ください。

< II. ポスター発表される方へ >

1. ポスター発表の方法

- 第 136 回大会のポスター発表形式は「オンライン」です。事前に提出されたポスターファイルを大会プラットフォーム内に掲示します。大会期間中および大会終了後の一定期間、大会参加者によるオンデマンド閲覧が可能です。オンデマンド配信についての注意事項について、文末の「IV 発表・視聴されるすべての方へ」

著作権等に関する注意事項」もご確認ください。

- 対面会場での追加掲示（定員あり，受付は終了しました）：オンラインポスターに追加して、対面会場でのポスター掲示を行うことができます。ただし、**対面会場にポスターを掲示しても、大会プラットフォーム内にオンラインポスターがアップロードされない場合は今大会の正式な発表実績にはなりません。**
- ポスター発表される方は、大会プラットフォーム内にオンラインポスターがアップロードされていれば、対面会場にポスターが掲示されなくても、今大会の正式な発表実績となります。

2. オンラインポスター発表について

- オンライン発表用ポスターファイルの形式：ファイル形式はPDF（A4 縦）、ファイル容量は20MB以下とします。音声付き動画ファイルは使用できません。
- オンラインポスター掲示期間中はチャットによる質疑応答が行えます。学生ポスター賞応募者は審査期間に必ず質疑応答を行ってください（4.を参照）。
- オンラインポスターに対する質疑応答（チャット）には、コアタイム（発表者が質疑応答に対応すべき時間帯）を設定しません。

3. 対面会場におけるポスターの追加掲示について

- 対面会場のポスターパネルのサイズは縦210 cm×横90 cmです。
- 学会大会期間中、対面会場に掲示されたポスターに対する質疑応答の時間（口頭発表がない時間帯）を確保します。**発表者は、この時間にポスター会場において対面で質疑応答できます（質疑応答は義務ではありませんが、推奨いたします）。**

4. 学生ポスター賞の審査

- 学生ポスター賞の審査は、大会プラットフォーム内のオンライン会場に掲示されたポスター、及びオンラインでのチャットによる質疑応答により行います。
- **学生ポスター賞の審査期間は ポスター掲示開始 ～ 3月18日（火）17:00**です。ポスター賞の審査項目には、審査期間中のチャットでの質疑への応答が含まれます。期間中に応答がないと学生ポスター賞は受賞できませんので注意してください。
- 学生ポスター賞受賞者の発表は2025年3月20日（木）の審査・選考終了後に大会ウェブサイトにて行います。また受賞者には3月20日にメールで受賞の連絡をするとともに、3月22日の閉会式にて表彰いたしますのでぜひご出席下さい。表彰式の様子は配信しますので、大会参加者のみなさまはオンラインでのご視聴も可能です。

5. ポスター発表ファイルの提出期限

- オンライン閲覧用に 2025 年 2 月 20 日 (木) ~ 3 月 12 日 (水, 17:00 期限) の期間中にポスター発表ファイル (PDF 形式) を専用サイトから提出してください。期限前であれば何度でも再提出が可能です。
- 提出期限までにポスターファイルが提出されない場合、ポスター発表はキャンセルとして扱われます。大会プラットフォーム内のオンラインポスターの該当ページには何も表示されず、後日印刷される講演要旨集からは要旨が削除されます。
- ポスターが閲覧可能な期間は 3 月 13 日 (大会 1 週間前) ~ 3 月 28 日です。
- 提出されたポスターの内容について、大会運営委員会およびプログラム編成担当は配信前に確認をしません。ポスターの文責は発表者にあります。問題となるかもしれない表現・記述などがないか、提出前にご確認ください。

< III オンラインで視聴される方へ >

1. 大会プラットフォーム"Claris"へのログイン

- 日本森林学会の大会ウェブサイト (<https://www.forestry.jp/meeting/>) に、大会プラットフォーム"Claris"へのリンクを掲載します。大会プラットフォーム"Claris"に直接アクセスしても構いません (<https://conference.iap-jp.org/jfs/conference/login>)。
- 参加申込みの際に発行された【WEB 受付番号】と【登録したメールアドレス】でログインします。

2. 口頭発表

- 大会期間中、各講演をライブ配信します。
- 企画シンポジウム、公募セッション、部門別発表が配信の対象です。学会企画の中にも配信されるものがあります (プログラムをご確認ください)。なお、3 月 2 3 日の関連研究集会は配信の対象外です。
- 質疑応答はチャットでのみ対応します。
- 大会期間終了後の一定期間、参加者限定で各講演の録画をオンデマンド配信します。

3. ポスター発表

- Claris にポスター発表のタイトル一覧を掲示します。タイトルをクリックするとポスターを閲覧できます。閲覧可能な期間は 3 月 13 日~3 月 28 日です。
- 掲示期間中はチャットによる質疑応答が行えます。

4. 注意事項

- Claris にログインするための URL や WEB 受付番号等は他者と共有しないでください。

<IV 発表・視聴されるすべての方へ：著作権等に関する注意事項 >

- 発表者以外の者が著作権を有する図表・写真・映像等を使用し、かつその使用に作者の許諾が必要な場合には、事前にその作者からご自身で許諾を得ていただくとともに、プレゼンテーションあるいはポスターに出典元の情報を適切に示してください。
- 発表者ら以外の者が著作権を有する図表・写真・映像等を使用し、かつその使用に作者の許諾は不要だが一定の条件が課せられている場合には、その条件を遵守してください（例：Google Earth の画面）。
- 寺社仏閣、美術品、芸能人の肖像、映画のシーン等は、ご自身が撮影した写真や画像であっても絶対に使用しないでください。
- 現地参加、オンライン参加に係らず視聴中、閲覧中の一切の録音・録画・写真撮影・スクリーンショットの保存等は絶対にしないで下さい。
- その他、他者への誹謗中傷と誤解されかねない表現・記述や、特許申請中の秘密情報など、公開後に問題となる可能性あるコンテンツが含まれていないか、発表資料の提出および発表前に、ご自身で十分にご確認ください。

オンライン
同時録画配信

第136回 日本森林学会大会 公開シンポジウム

北海道の 広葉樹資源を活かす

2025年3月20日 (木・祝) 13:00-16:30

会場 北海道大学 学術交流会館 講堂(2階)

プログラム

司会

明石信廣(北海道立総合研究機構 林業試験場)

参加無料

申込不要

講演1 北海道の広葉樹マーケット：これまでとこれから

嶋瀬拓也(森林総合研究所北海道支所)

講演2 旭川家具における北海道産広葉樹利用促進の現状

藤田哲也(旭川家具工業協同組合理事長、(株)カンディハウス代表取締役会長)

講演3 広葉樹資源の有効利用と高価値化のために

秋津裕志(北海道立総合研究機構 林産試験場)

講演4 北海道の広葉樹：育てていくために必要なこと

吉田俊也(北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター)

話題提供1 国有林での天然林施業のあり方～公益的機能の増進と持続可能な広葉樹材の供給～

寺村 智(北海道森林管理局 計画保全部 計画課)

話題提供2 道有林における広葉樹資源の活用事例～人工林内の広葉樹を利用する～

野村具弘(北海道水産林務部 森林海洋環境局 道有林課)

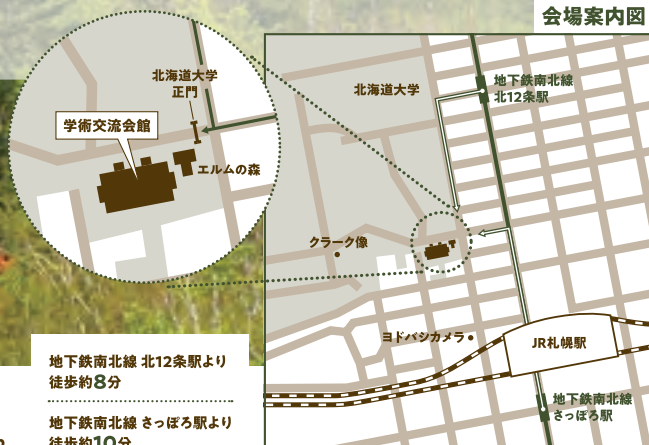
パネルディスカッション

コーディネーター：明石信廣

パネラー：嶋瀬拓也、藤田哲也、秋津裕志、吉田俊也、寺村 智、野村具弘

森林・自然環境技術教育研究センター(JAFEE)による森林分野CPD(4時間)認定プログラム

会場案内図

地下鉄南北線 北12条駅より
徒歩約8分地下鉄南北線 さっぽろ駅より
徒歩約10分

主催 一般社団法人日本森林学会 共催 公益社団法人 国土緑化推進機構 後援 北海道大学

公益社団法人 国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業 お問い合わせ 136symposium@forestry.jp

2025年度 日本森林学会各賞 受賞者および受賞業績

1. 日本森林学会賞

小池 伸介（東京農工大学）

森林棲の中大型哺乳類群集の種子散布機能に関する研究

恩田 裕一（筑波大学）

流域の放射性セシウム動態解明および持続的森林・水資源管理への学際研究

2. 日本森林学会奨励賞

森大喜（森林総合研究所）

Is the Tea Bag Index (TBI) Useful for Comparing Decomposition Rates among Soils?

山田祐亮（森林総合研究所）

Conflicts among ecosystem services may depend on environmental awareness: a multi-municipality analysis

3. 日本森林学会学生奨励賞

八十川伊織（投稿時：東京農工大学 応募時：東京農工大学）

2018年北海道胆振東部地震に伴う崩壊斜面から流亡した森林炭素蓄積量の評価

阿部隼人（投稿時：九州大学 応募時：九州大学）

Soil erosion under forest hampers beech growth: Impacts of understory vegetation degradation by sika deer

4. Journal of Forest Research 論文賞

Katsuhiro Osumi and Takashi Masaki（筆頭著者の所属：森林総合研究所）

論文題目：Longevity of tall tree species in temperate forests of the northern Japanese Archipelago

掲載巻号・頁・発行年：Vol.28, No.5, 333-344, 2023

5. 日本森林学会誌論文賞

宮本尚子・武津英太郎・井城泰一・岩泉正和・松永孝治・山野邊太郎（筆頭著者の所属：林木育種センター）

論文題目：畳み込みニューラルネットワーク MobileNetV2 を用いたクロマツ雌花開花ステージの判定ツールの開発

掲載巻号・頁・発行年：105 巻 10 号, 316 - 322, 2023 年

佐藤周平・竹本太郎（筆頭著者の所属：東京農工大学）

論文題目：集落人口を対象にしたコーホート分析の可能性—新潟県上越市不動地区における集落合併の要因—

掲載巻号・頁・発行年：105 巻 12 号, 345 - 356, 2023 年

3月20日（木）9時15分から行われる開会式にて、授賞式ならびに学会賞、奨励賞、学生奨励賞の受賞者講演を行います。また、大会開催期間中、Journal of Forest Research 論文賞・日本森林学会誌論文賞のポスターを会場にて展示します。

大会スケジュール 3月20日

会場	講堂 (学术交流会館)	N31 (農学部)
開始時刻		
9:00	開会式・授賞式・講演	
9:15	開会式 森林学会各賞授賞式 受賞者講演	
9:30		
9:45		
10:00		
10:15		
10:30		
10:45		
11:00		
11:15		
11:30		
11:45		
12:00		JFR編集委員会
12:15		
12:30		
12:45	公開シンポジウム	
13:00	北海道の広葉樹資源を活かす	
13:15		
13:30		
13:45		
14:00		
14:15		
14:30		
14:45		
15:00		
15:15		
15:30		
15:45		
16:00		
16:15		
16:30		
16:45		
17:00		
17:15		
17:30		
17:45		
18:00	懇親会 (会場：札幌ビール園)	
18:15		
18:30		
18:45		
19:00		
19:15		
19:30		
19:45		

大会スケジュール 3月21日

会場	W109 (総合研究棟)	S12 (農学部)	N11 (農学部)	N13 (農学部)	会場	S22 (農学部)	N21 (農学部)	N23 (農学部)	会場	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)	
開始時刻	S4 林業はどこでやる	S9 竹林の価値創出	T1 生物多様性保全	S3 降雪地の森林管理	開始時刻	T3 デジタルツイン	S6 生理部門シンポ	造林1	開始時刻	経営1	T4 樹木根	林政1	
9:00	S4-1	S9-1	趣旨説明	S3-1	9:00	T3-1	S6-1	E1	9:00	D1	T4-1	A1	
9:15	S4-2	S9-2	T1-1	S3-2	9:15	T3-2	S6-2	E2	9:15	D2	T4-2	A2	
9:30	S4-3	S9-3	T1-2	S3-3	9:30	T3-3	S6-3	E3	9:30	D3	T4-3	A3	
9:45	S4-4	S9-4	T1-3	S3-4	9:45	T3-4		討論・調整	9:45	D4	討論・調整	A4	
10:00	S4-5	S9-5	T1-4		10:00	討論・調整		教育1	10:00	D5	T4-4	A5	
10:15	S4-6		T1-5		10:15	T3-5		E4	10:15	討論・調整	T4-5	討論・調整	
10:30			T1-6		10:30	T3-6		C2	10:30	D6	T4-6	A6	
10:45			T1-7		10:45	T3-7		C3	10:45	D7	討論・調整	A7	
11:00			T1-8	特用林産	11:00	討論・調整		討論・調整	11:00	D8	T4-7	A8	
11:15			T1-9	N1	11:15	T5 森林の放射能		C4	11:15	D9	T4-8	A9	
11:30			T1-10	N2	11:30	ポスター紹介		C5	11:30	D10	T4-9	A10	
11:45			討論・調整	討論・調整	11:45			討論・調整	11:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	
12:00					12:00		学会企画1		12:00				
12:15					12:15		ランチョンミーティング「選択的夫婦別姓制度の必要性を考える」 ※12:00開始		12:15		日本森林学会誌 編集委員会		
12:30					12:30				12:30				
12:45					12:45				12:45				
13:00	ポスター発表の質疑応答 (対面会場)				13:00	ポスター発表の質疑応答 (対面会場)				13:00	ポスター発表の質疑応答 (対面会場)		
13:15					13:15					13:15			
13:30					13:30					13:30			
13:45					13:45					13:45			
14:00	S7 大気森林生理生態	S2 木バイ供給拡大	S1 保持林業	T2 森林の保健休養	14:00	T6 ネットゼロ森林	T5 森林の放射能	S5 森林サービス産業	14:00	経営2		林政2	
14:15	S7-1	S2-1	S1-1	T2-1	14:15	T6-1	T5-1	S5-1	14:15	D11		A11	
14:30	S7-2	S2-2	S1-2	T2-2	14:30	T6-2	T5-2	S5-2	14:30	D12		A12	
14:45	S7-3	S2-3	S1-3	T2-3	14:45	T6-3	T5-3	S5-3	14:45	D13		A13	
15:00	S7-4	S2-4	S1-4	T2-4	15:00	T6-4	討論・調整	S5-4	15:00	D14		A14	
15:15	S7-5	S2-5	S1-5	討論・調整	15:15	討論・調整	T5-4		15:15	討論・調整		討論・調整	
15:30	S7-6	S2-6	S1-6		15:30	T6-5	T5-5		15:30	D15		A15	
15:45	S7-7	S2-7	S1-7		15:45	T6-6	T5-6		15:45	D16		A16	
16:00		S2-8	S1-8		16:00	T6-7	T5-7		16:00	D17		A17	
16:15					16:15	討論・調整	討論・調整		16:15	D18		A18	
16:30					16:30	T6-8	T5-8		16:30	討論・調整		討論・調整	
16:45					16:45	T6-9	T5-9		16:45	D19	学会企画2	A19	
17:00					17:00	T6-10	T5-10		17:00	D20	国際交流会	A20	
17:15				学会企画3	17:15	T6-11	T5-11		17:15	D21		A21	
17:30					17:30	T6-12	討論・調整		17:30	討論・調整		A22	
17:45				JFRのData Noteに投稿しよう！	17:45	討論・調整			17:45			討論・調整	
18:00					18:00				18:00				
18:15					18:15				18:15				
18:30					18:30				18:30				
18:45					18:45				18:45				

大会スケジュール 3月22日

会場	W109 (総合研究棟)	S11 (農学部)	S12 (農学部)	N11 (農学部)	N13 (農学部)	会場	S21 (農学部)	S22 (農学部)	N21 (農学部)	N23 (農学部)	会場	S31 (農学部)	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)	小講堂 (学術交流会館)	
開始時刻	植物生態	風致・観光1	教育2	造林2	立地1	開始時刻	防災・水文1	動物・昆虫1	生理	遺伝・育種1	開始時刻	経営3	微生物1		林政3		
9:00	H1	B1	C6	E4	I1	9:00	J1	L1	G1	F1	9:00	D22	M1		A23		
9:15	H2	B2	C7	E5	I2	9:15	J2	L2	G2	F2	9:15	D23	M2		A24		
9:30	H3	B3	C8	E6	I3	9:30	J3	L3	G3	F3	9:30	D24	M3		A25		
9:45	討論・調整	討論・調整	C9	討論・調整	I4	9:45	討論・調整	討論・調整	G4	F4	9:45	D25	討論・調整		A26		
10:00	H4	B4	C10	E7	I5	10:00	J4	L4	討論・調整	F5	10:00	討論・調整	M4		A27		
10:15	H5	B5	討論・調整	E8	討論・調整	10:15	J5	L5		討論・調整	10:15	D26	M5		討論・調整		
10:30	H6	B6	C11	E9	I6	10:30	J6	L6	利用1	F6	10:30	D27	M6		A28		
10:45	討論・調整	討論・調整	C12	討論・調整	I7	10:45	討論・調整	討論・調整	K1	F7	10:45	D28	討論・調整		A29		
11:00	H7	B7	C13	E10	I8	11:00	J7	L7	K2	F8	11:00	D29	M7		A30		
11:15	H8	B8	C14	E11	I9	11:15	J8	L8	K3	F9	11:15	討論・調整	M8		A31		
11:30	H9	B9	C15	E12	I10	11:30	J9	L9	K4	F10	11:30		M9		A32		
11:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	11:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	11:45		討論・調整		討論・調整		
12:00	ポスター発表の質疑応答(対面会場) {高校生ポスター:12:00-14:00} {一般ポスター:13:00-14:00}					12:00	ポスター発表の質疑応答(対面会場) {高校生ポスター:12:00-14:00} {一般ポスター:13:00-14:00}					12:00	ポスター発表の質疑応答(対面会場) {高校生ポスター:12:00-14:00} {一般ポスター:13:00-14:00}				
12:15						12:15											
12:30						12:30											
12:45						12:45											
13:00						13:00											
13:15						13:15											
13:30						13:30											
13:45						13:45											
14:00	S10 北海道の広葉樹	風致・観光2	S8 森林教育の発展	造林3	立地2	14:00	防災・水文2	動物・昆虫2	利用2	遺伝・育種2	14:00	経営4	微生物2		林政4	学会企画4	
14:15	S10-1	B10	S8-1	E13	I11	14:15	J10	L10	K5	F11	14:15	D30	M10		A33	高校生ポスター 表彰式	
14:30	S10-2	B11	S8-2	E14	I12	14:30	J11	L11	K6	F12	14:30	D31	M11		A34		
14:45	S10-3	B12	S8-3	E15	I13	14:45	J12	L12	K7	F13	14:45	D32	M12		A35	大学ツアー (予定)	
15:00	S10-4	B13	S8-4	E16	I14	15:00	討論・調整	討論・調整	K8	F14	15:00	D33	M13	学会企画5	A36		
15:15	S10-5	討論・調整	S8-5	討論・調整	討論・調整	15:15	J13	L13	K9	F15	15:15	D34	討論・調整		討論・調整		
15:30	S10-6	B14	S8-6	E17		15:30	J14	L14	討論・調整	討論・調整	15:30	討論・調整	M14	日誌の使い方 (仮)	A37		
15:45	S10-7	B15	S8-7	E18		15:45	J15	L15	K10	F16	15:45	D35	M15		A38		
16:00	S10-8	B16		E19		16:00	討論・調整	討論・調整	K11	F17	16:00	D36	M16		A39		
16:15		B17		E20		16:15	J16	L16	K12	F18	16:15	D37	討論・調整		A40		
16:30		討論・調整		討論・調整		16:30	J17	L17	K13	F19	16:30	D38	M17		討論・調整		
16:45				E21		16:45	J18	L18	討論・調整	F20	16:45	D39	M18		A41		
17:00				E22		17:00	討論・調整	L19		討論・調整	17:00	討論・調整	M19		A42		
17:15				E23		17:15		討論・調整			17:15		討論・調整		A43		
17:30				討論・調整		17:30					17:30				A44		
17:45						17:45					17:45				討論・調整		
18:00						18:00					18:00						
18:15						18:15					18:15						
18:30						18:30					18:30						
18:45						18:45					18:45						

口頭発表座長一覧

部門	発表番号	座長氏名 (所属)	部門	発表番号	座長氏名 (所属)
林政1	A1	芳賀大地 (鳥取大学)	防災 ・水文1	J1-J3	松本一穂 (岩手大学)
	A2-A10	1件前の発表者		J4-J6	鈴木拓郎 (森林総合研究所)
林政2	A11	林雅秀 (山形大学)	防災・ 水文2	J7-J9	飯田真一 (森林総合研究所)
	A12-A22	1件前の発表者		J10-J12	瀧澤英紀 (日本大学)
林政3	A23	林雅秀 (山形大学)	利用1	J13-J15	澤野真治 (森林総合研究所北海道支所)
	A24-A32	1件前の発表者		J16-J18	小谷亜由美 (名古屋大学)
林政4	A33	笹田敬太郎 (森林総合研究所九州支所)	利用2	K1-K4	櫻井 倫 (宮崎大学)
	A34-A44	1件前の発表者		K5-K9	鈴木保志 (高知大学)
風致・ 観光1	B1-B3	平野悠一郎 (森林総合研究所)	動物・ 昆虫1	K10-K13	長谷川尚史 (京都大学)
	B4-B6	庄子康(北海道大学)		L1-L3	片桐奈々 (岐阜県森林研究所)
	B7-B9	愛甲哲也 (北海道大学)		L4-L6	山崎理正 (京都大学)
風致・ 観光2	B10-B13	愛甲哲也 (北海道大学)	動物・ 昆虫2	L7-L9	山崎理正 (京都大学)
	B14-B17	平野悠一郎 (森林総合研究所)		L10-L12	吉田智弘 (東京農工大学)
教育1	C1-C3	東原貴志 (上越教育大学)	微生物1	L13-L15	加賀谷悦子 (森林総合研究所)
	C4-C5	寺下太郎 (愛媛大学)		L16-L19	山崎理正 (京都大学)
教育2	C6-C10	山田亮 (北海道教育大学岩見沢校)	微生物2	M1-M3	小泉敬彦 (東京農業大学)
	C11-C15	杉浦克明 (日本大学)		M4-M6	練春蘭 (東京大学)
経営1	D1-D5	當山啓介 (岩手大学)	特用林産	M7-M9	松田陽介 (三重大学大学院)
	D6-D10	志水克人 (森林総合研究所)		M10-M13	升屋勇人 (森林総合研究所)
経営2	D11-D14	村上拓彦 (新潟大学)	公募セッション	M14-M16	楠本大 (東京大学)
	D15-D18	光田靖 (宮崎大学)		M17-M19	安藤裕萌 (森林総合研究所九州支所)
経営3	D19-D21	伊高静 (東京理科大学)	T1	N1-N2	竹本周平 (東京大学)
	D22-D25	齋藤英樹 (森林総合研究所)		T1-1-T1-5	山中聡 (森林総合研究所北海道支所)
経営4	D26-D29	小幡進午 (森林総合研究所)	T2	T1-6-T1-10	河村和洋 (森林総合研究所北海道支所)
	D30-D34	米康充 (島根大学)		T2-1	上原巖 (東京農業大学)
造林1	D35-D39	守口海 (信州大学)	T3	T2-2-T2-4	1件前の発表者
	E1-E3	高橋一秋 (長野大学)		T3-1-T3-4	南光一樹 (森林総合研究所)
造林2	E4-E6	高橋一秋 (長野大学)	T4	T3-5-T3-7	橋本昌司 (森林総合研究所)
	E7-E9	酒井敦 (森林総合研究所東北支所)		T4-1-T4-3	檀浦正子 (京都大学)
造林3	E10-E12	平田令子 (宮崎大学)	T5	T4-4-T4-6	牧田直樹 (信州大学)
	E13-E16	太田敬之 (森林総合研究所)		T4-7-T4-9	平野恭弘 (名古屋大学)
	E17-E20	沼宮内信之 (秋田県林業研究研修センター)		T5-1-T5-4	大久保達弘 (東北農林専門職大学)
遺伝・ 育種1	E21-E23	大野泰之 (北海道立林業試験場)	T6	T5-5-T5-7	高橋純子 (筑波大学)
	F1-F5	石塚航 (北海道立総合研究機構)		T5-8-T5-11	今村直広 (森林総合研究所北海道支所)
遺伝・ 育種2	F6-F10	大平峰子 (森林総合研究所林木育種センター)	T6-1	T6-1	平田晶子 (森林総合研究所)
	F11-F15	中西敦史 (森林総合研究所北海道支所)		T6-2-T6-4	小南裕志 (森林総合研究所)
生理	F16-F20	久本洋子 (東京大学)	T6-5-T6-6	T6-5-T6-6	酒井寿夫 (国立研究開発法人森林研究・整備機構)
	G1-G4	則定真利子 (東京大学)		T6-7	北原文章 (森林総合研究所)
	植物生態	H1-H3		籠谷泰行 (滋賀県立大学)	T6-8-T6-9
立地1	H4-H6	梶野浩史 (東北大学)	T6-10-T6-1	T6-10-T6-1	江原誠 (国立研究開発法人森林研究・ 整備機構森林総合研究所)
	H7-H9	平山貴美子 (京都府立大学大学院)			
	I1-I5	高木正博 (宮崎大学)			
立地2	I6-I10	森大喜 (森林総合研究所九州支所)			
	I11-I14	山下多聞 (島根大学)			

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月21日午前 1/2

会場	W109 (総合研究棟)	S12 (農学部)	N11 (農学部)	N13 (農学部)	S22 (農学部)
開始時刻	S4 林業はどこでやる	S9 竹林の価値創出	T1 生物多様性保全	S3 降雪地の森林管理	T3 デジタルツイン
9:00	S4-1 林地生産力評価方法の変遷と課題：寺岡行雄（鹿児島大学）	S9-1 日本のタケ類とその生態的特性：小林慧人（森林総合研究所）	趣旨説明	S3-1 高解像度地域気候モデルを用いた地球温暖化の日本の降雪・積雪への影響評価：川瀬宏明（気象庁気象研究所）	T3-1 フォワードの自動走行マルチオペレーション技術の開発：中澤昌彦（森林総合研究所）ら
9:15	S4-2 地域におけるスギ樹高成長予測に基づくゾーニング：中尾勝洋（森林総合研究所）ら	S9-2 竹林の揮発性有機化合物放出—竹林管理と気候変動における大気質への影響：張庭維（国立台湾大学）	T1-1 マツ材線虫病による絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの衰退：金谷整一（森林総合研究所九州支所）ら	S3-2 北海道における積雪・融雪量の地球温暖化による変化：勝山祐太（森林総合研究所）	T3-2 山地災害の被災状況をデジタルツイン化する技術開発：秋田寛己（国立研究開発法人防災科学技術研究所）ら
9:30	S4-3 スギ挿木品種の葉の機能形質の可塑性と攪乱に対する成長反応：榎木勉（九州大学）ら	S9-3 竹林の発揮してきた文化機能：岩松文代（北九州市立大学）	T1-2 樹種ごとの樹冠直上でのrPPFDの違いが成長に及ぼす影響：谷口真吾（琉球大学）	S3-3 暖地積雪地帯における森林の貯雪・融雪遅延機能の評価：藤原洋一（石川県立大学）ら	T3-3 UAVによる森林施業竣工検査の効率化：大槻峻介（名古屋大学）ら
9:45	S4-4 成長に優れたスギ系統を植えるかどうか育つ？-林業採算性評価のための取組み-：松下通也（森林総合研究所）ら	S9-4 ライフサイクルアセスメントから見える竹材利用の温室効果ガス削減の可能性：井上岳（東京農工大学大学院）	T1-3 温帯二次林における甲虫群集の垂直層構造とその季節変化：吉田智弘（東京農工大学）ら	S3-4 融雪期の水流出に対する伐採影響の長期的変化—盗掘森林理水試験地の事例—：阿部俊夫（森林総合研究所）ら	T3-4 ハンドヘルド型LiDARによる森林計測 ～現状と課題～：瀧誠志郎（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
10:00	S4-5 木材生産技術から見た生産適地判定における課題：齋藤仁志（岩手大学）	S9-5 日本の竹林における炭素蓄積量の推移の推定：井上昭夫（近畿大学）ら 発表取消	T1-4 生態系修復型の広葉樹林業に向けた森林環境調査—地表徘徊性甲虫を対象に：時任美乃理（京都大学）ら		討論・調整
10:15	S4-6 GISシミュレーションによる路網作設・集材搬出適地の選定：白澤紘明（森林総合研究所）		T1-5 樹種混植は樹木の生存率を高めるか？～樹木多様性操作実験の初期結果より～：齋藤大（東京大学）ら		T3-5 林分スケールのデジタルツインへ：個体ベースモデルで挑む可能性と課題：佐藤永（海洋研究開発機構）
10:30			T1-6 市民調査による葉面DNAの解析—飛騨市の広葉樹林を事例に—：浅野悟史（京都大学）ら		T3-6 立木段階における原木の質的データ推定の試み：原田嵩一（京都府立大学大学院）ら
10:45			T1-7 北海道根釧地域の格子状防風林の管理と絶滅危惧種・生物多様性保全の両立：速水将人（北海道立総合研究機構 林業試験場）ら		T3-7 森林の3次元データの利用目的とその精度について：高橋與明（森林総合研究所九州支所）
11:00			T1-8 水源林造成事業地における保持林業の取組（事例報告）：山台英太郎（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら	特用林産	討論・調整
11:15			T1-9 森林整備活動が水源涵養機能に与える影響の簡易評価の試み：霜山竣（八千代エンジニアリング株式会社）ら	N-1 マツタケ山造成施業後の子実体発生—施業6年後の報告—：古川仁（長野県林業総合センター）ら	T5 森林の放射能
11:30			T1-10 森林の審美的価値に林齢と林相が与える影響：山中聡（森林総合研究所）ら	N-2 クロモジの生育に適した光環境の検討：高橋輝昌（千葉大学）ら	ポスター紹介
11:45			討論・調整	討論・調整	
12:00					
12:15					
12:30					
12:45					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月21日午前 2/2

会場	N21 (農学部)	N23 (農学部)	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)
開始時刻	S6 生理部門シンポ	造林 1	経営 1	T4 樹木根	林政 1
9:00	S6-1 電子顕微鏡を用いた冬芽の越冬メカニズムの研究：遠藤圭太 (森林総合研究所林木育種センター)	E-1 カラマツコンテナ苗の実用的な育苗密度：二本松裕太 (長野県林業総合センター) ら	D-1 カラマツ類優良苗植栽による気候変動下での収穫量予測：滝谷美香 (道総研林業試験場) ら	T4-1 解剖構造に着目した細根寿命の探求：針葉樹種における原生木部数の季節変化：細井彩 (信州大学大学院) ら	A-1 都道府県による指定管理鳥獣捕獲等事業の現局面：古賀達也 (森林総合研究所) ら
9:15	S6-2 春にブドウの冬芽はどのように耐寒性を失うのか：春日純 (帯広畜産大学)	E-2 人工光と自然光のハイブリッド型苗木生産システムによるカラマツ苗木の育成：下山真人 (株式会社大林組) ら	D-2 NFIデータに基づく全国スケールの森林成長予測：辰巳晋一 (京都大学) ら	T4-2 アジア3地域の森林における樹木の吸水深度特性：勝浦柊 (名古屋大学大学院) ら	A-2 文化的FESのビジネス化 - レンタルフォレスト利用者の実態など：柴田晋吾 (東北農林専門職科大学) ら
9:30	S6-3 亜高山帯で生きる常緑針葉樹の越冬戦略：種子田春彦 (東京大学) ら	E-3 シカ高密度生息域で忌避剤散布による食害防止対策を実施した事例：柴田寛 (鳥取県林業試験場)	D-3 炭素固定量予測式の妥当性の検証 - 海外活動のカーボンオフセットのために：菅沼秀樹 (東北農林専門職科大学) ら	T4-3 椎樹の根圏炭素消費を規定する要因は何か？：温室苗木実験で分かったこと：寺井水明 (東京農業大学) ら	A-3 Current Utilization of Geographical Indications Wild Fungi Industry in Yunnan, China: A Case Study in Mushrooms：李欣陽 (東京大学) ら
9:45		討論・調整	D-4 スギ・ヒノキ人工林の再造林を対象としたカーボンクレジット評価手法の検討：佐藤惟生 (東京農工大学) ら	討論・調整	A-4 千葉県草川原用水の維持管理の変遷：川上健 (東京大学) ら
10:00		教育 1	D-5 Sensitivity analysis of a growth simulation model for Dipterocarp plantation in Malaysia：マンダルモハマドシャミムハサン (国際農林水産業研究センター) ら	T4-4 Influence of masting on resource dynamics in fine roots of <i>Fagus crenata</i> individuals identified using molecular markers：韓慶民 (国立研究開発法人森林研究・整備機構)	A-5 阿蘇における牧野組合の動向 - 牧野組合現況調査を中心として -：八巻一成 (国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所) ら
10:15		C-1 ケニア社会林業プロジェクトの歩みと教育効果の検証：申山祐志 (岡山理科大学) ら 発表取消	討論・調整	T4-5 スキャナー法によるモウソウチク林の根系動態の解析と撮影地点数の影響評価：遠藤いず貴 (兵庫県立大学)	討論・調整
10:30	C-2 ドイツにおける森林認識の変化：寺下太郎 (愛媛大学)	D-2 2時期の航空レーザ計測から作成したDCHMの差分による樹高成長量評価：大矢信次郎 (長野県林業総合センター)	D-6 2時期の航空レーザ計測から作成したDCHMの差分による樹高成長量評価：大矢信次郎 (長野県林業総合センター)	T4-6 植栽後6年のクロマツコンテナ苗の根系とその強度：藤田早紀 (森林総合研究所)	A-6 長期滞在型観光の拡大の可能性：屋久島における長期滞在客の特性に着目して：柴崎茂光 (東京大学) ら
10:45	C-3 世界遺産の森を守り活かすための多面的な教育アプローチ：大島順子 (国立大学法人 琉球大学) ら	D-7 地位指数モデル開発における過去空中写真DSM利用の効果：光田靖 (宮崎大学)	討論・調整	討論・調整	A-7 林学における「樹芸」概念の特徴と変遷：齋藤敏生 (東京大学)
11:00		討論・調整	D-8 新潟県における航空レーザ計測データを用いた地位指数曲線作成の試み：村上拓彦 (新潟大学) ら	T4-7 ヒノキ人工林内に生育するヤブムラサキの水平根引き抜き試験：橋隆一 (東京農業大学) ら	A-8 ボランティア団体が行う半自然草原の保全に向けたニホンジカ被害対策：小山泰弘 (長野県林業総合センター) ら
11:15	C-4 日本全国における森のようちえんの活動環境の把握：島村琉太 (東京農工大学) ら	D-9 広域スケールにおける森林指標を考慮した流域環境の評価：北野陽大 (京都府立大学大学院) ら	D-10 森林域と水域の統合的解析を志向した衛星ライダーデータからの浅水深度推定：名倉篤徳 (千葉大学) ら	T4-8 幹周囲の根がもたらす土壌崩壊防止力の樹種間の比較：藤井杏佳 (兵庫県立大学) ら	A-9 住民が森林に求める機能の重みづけ-AHP法を活用して -：垂水亜紀 (国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支所) ら
11:30	C-5 幼児キャンプでの樹木と子どものかかわり：遠藤知里 (常葉大学短期大学部)		D-10 森林域と水域の統合的解析を志向した衛星ライダーデータからの浅水深度推定：名倉篤徳 (千葉大学) ら	T4-9 コナラ萌芽再生個体の土壌補強強度は、伐採後何年まで減少するのか？：藤堂千景 (兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター)	A-10 岩手県久慈地方におけるアカマツ林の施業と植物の多様性：古市智紀 (京都大学大学院) ら
11:45		討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
12:00	学会企画 1				
12:15	ランチョンミーティング「選択的夫婦別姓制度の必要性を考える」				
12:30	※12:00開始				
12:45					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月21日午後 1/2

会場	W109	S12	N11	N13	S22
開始時刻	(総合研究棟)	(農学部)	(農学部)	(農学部)	(農学部)
13:00	ポスター発表の質疑応答 (対面会場)				
13:15					
13:30					
13:45					
14:00					
14:15	S7-1 常緑針葉樹のシュートおよび針葉レベルの光合成から針葉の長寿命を考える：北尾光俊（森林総合研究所）ら	S2-1 木質バイオマス供給の現状と課題：久保山裕史（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）	S1-1 保持林業実証実験が北海道有林で実施された経緯について：土屋純治（北海道立北の森づくり専門学院）	T2-1 高齢者による風景の注意回復評価：尾崎勝彦（びわこリハビリテーション専門職大学）ら	T6-1 高分解能炭素シミュレータを用いた森林伐採シナリオによる森林の変化推定：小南裕志（森林総合研究所）ら
14:30	S7-2 スギとヒノキの異なる樹冠位置における針葉の光合成窒素利用特性：渡辺誠（東京農工大学）ら	S2-2 早成樹によるバイオマス生産時の炭素負債問題：相川高信（PwCコンサルティング合同会社）	S1-2 保持林業実証実験の概要と主要な結果：尾崎研一（森林総合研究所）	T2-2 アカエゾマツ精油エマルジョンの温泉施設における抗菌消臭効果：高見菜月（酪農学園大学）ら	T6-2 日本の森林の二酸化炭素吸収機能の評価に向けた地理空間情報の活用：平田晶子（森林総合研究所）ら
14:45	S7-3 光量と葉のガス交換能力の樹冠内鉛直分布がスギのオゾン吸収量に与える影響：田中亮志（東京農工大学）ら	S2-3 早生樹林業のためのキリの成長および材質の評価：石栗太（宇都宮大学）ら	S1-3 保持林業実証実験で残された樹木の動態：明石信廣（北海道立総合研究機構）ら	T2-3 子どもに対する森林散策の効果に関する研究：狩谷明美（大阪歯科大学）ら	T6-3 グローバルな森林炭素収支の推定について：伊藤昭彦（東京大学）ら
15:00	S7-4 野外長期オゾン暴露環境におけるヤマナラシ属2種の成長とBVOC放出：増井昇（静岡県立大学）ら	S2-4 千葉県におけるNEDO早生樹事業でのユーカリ等造林の成果と課題：雷山啓介（岩手大学）ら	S1-4 保持林業の機会費用を最小にする保持木配置の評価：津田高明（地方独立行政法人 北海道立総合研究機構）ら	T2-4 地域の森林を活用した社会福祉施設の活動による「森福連携」の事例：上原巖（東京農業大学）	T6-4 高分解能衛星画像を使ったスギ花粉の発生源および発生量推定システムの開発：中村裕幸（株式会社woodinfo）
15:15	S7-5 FACE実験から推察した高CO2環境での森林のメタン消費機能の維持：小池孝良（北海道大学）	S2-5 ヤナギ超短伐期施業による木質バイオマス生産に向けた研究開発の現状と課題：高橋正義（森林総合研究所）ら	S1-5 保持林業を現場で請け負って：高篠和憲（堀川林業株式会社）ら	討論・調整	討論・調整
15:30	S7-6 樹木の放射吸収特性の違いが気候安定化に寄与する可能性：久米篤（九州大学）ら	S2-6 NEDO「エネルギーの森事業」の概要と課題：矢野貴久（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）	S1-6 北海道社有林で保持林業を実践して：高森淳（三井物産フォレスト株式会社）		T6-5 全国の地上部バイオマス推定に向けた成長モデルの検討：北原文章（森林総合研究所）ら
15:45	S7-7 太陽光誘発クロロフィル蛍光による生態系光合成の観測とモデル化：加藤知道（北海道大学）	S2-7 九州におけるFIT制度下での木質バイオマス発電への燃料供給：佐藤政宗（株式会社森のエネルギー研究所）	S1-7 九州・四国での保持林業：保持木の種組成とサイズから可能性と課題を考える：山川博美（森林総合研究所九州支所）ら		T6-6 フラックスタワー下のヒノキ林における積み上げ法による炭素収支の推定：佐藤薫（京都大学）ら
16:00		S2-8 高知県および四国地域における木質バイオマス利用と供給の現状と課題：鈴木保志（高知大学）	S1-8 日本における保持林業の今後の展開に向けて：山浦悠一（森林総合研究所）		T6-7 森林管理シミュレーターを用いた枯死木・リター・土壌炭素量の子測手法構築：酒井寿夫（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら
16:15					討論・調整
16:30					T6-8 民有林における伐採傾向と地理・社会的要因の関係性に関する分析：山田祐亮（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
16:45					T6-9 日本の森林吸収源対策のロジックの整理：江原誠（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら
17:00					T6-10 伐採木材製品の炭素貯蔵量推計に向けた建築物の寿命関数と半減期の推定：三條瑚都子（東京農工大学大学院）ら
17:15				学会企画3	T6-11 木材フローと素材生産量に基づくHWPの炭素貯蔵量の推計：森井拓哉（森林総合研究所）ら
17:30				JFRのData Noteに投稿しよう！	T6-12 林分と伐採木材製品の蓄積変化および代替効果を考慮した炭素吸排出量評価：岡裕泰（森林総合研究所）
17:45					討論・調整
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月21日午後 2/2

会場	N21 (農学部)	N23 (農学部)	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)
開始時間					
13:00	ポスター発表の質疑応答 (対面会場)				
13:15					
13:30					
13:45					
14:00	T5 森林の放射能	S5 森林サービス産業	経営 2		林政 2
14:15	T5-1 森林源流域からの溶存態Cs-137流出と斜面地下水の影響：加藤弘亮(筑波大学)ら	S5-1 森林サービス産業の事業経営における現状と課題：矢島万理(公益社団法人 国土緑化推進機構)	D-11 目視判読によって伐採リファレンスデータはどの程度ばらつくのか？：志水克人(森林総合研究所)ら		A-11 森林と人々の隔たりの要因を探る：都市部と山村部でのアンケート結果の比較：高橋卓也(滋賀県立大学)ら
14:30	T5-2 森林源流域において落葉除去が水質及び ¹³⁷ Cs流出に及ぼす影響：永田祐太郎(筑波大学)ら	S5-2 森林訪問を促す地理情報提供の重要性：松浦俊也(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)	D-12 海岸防災林におけるYOLOv5によるマツ枯れ被害木の検出：小林裕之(富山県農林水産総合技術センター森林研究所)ら		A-12 移住者の人的ネットワーク形成に定住者が果たす役割：北海道下川町の事例：黒田峻平(北海道大学大学院)
14:45	T5-3 森林から渓流生態系への枯死葉を介した放射性セシウムの移行解明：金指努(福島大学)ら	S5-3 森林での体験活動と森林教育との関わり：井上真理子(森林総合研究所)ら	D-13 高分解能衛星データを用いた松枯れ被害木の把握：小澤和浩(精密林業計測株式会社)ら		A-13 過耕選林工程開始から20年間の自然環境と住民生活の変化：菊池善純(東京大学)ら 発表取消
15:00	討論・調整	S5-4 森林の訪問利用に関する制度的課題：平原俊(東京農工大学大学院)	D-14 時系列航空およびUAV写真を用いた森林限界における植生変化抽出：米康充(島根大学)ら		A-14 山村への移住及び定着に至る過程－東京都檜原村を事例として－：伊藤千尋(東京大学)ら
15:15	T5-4 スギ林土壌中Cs-137空間的不均一性に対する選択流寄与と土壌理化学的影響：三嶋駿介(筑波大学)ら		討論・調整		討論・調整
15:30	T5-5 スギとコナラの樹幹流による鉱質土壌中の可給態放射性セシウムの鉛直分布：今村直広(森林総合研究所)ら		D-15 間伐強度が異なるスギ人工林におけるマルチGNSSの位置精度検証：高岸且(株式会社バスコ)ら		A-15 2020年国勢調査を用いた世帯主・配偶者が林業に就業する世帯の分析：林宇一(宇都宮大学)ら
15:45	T5-6 畑跡地と二次林のコナラによる放射性セシウム吸収と細根：三浦寛(森林総合研究所)ら		D-16 樹木位置同定手法の提案：伊高静(東京理科大学)ら		A-16 林業労働者の退職理由についての考察：小菅良豪(にちなん中国山地林業アカデミー)
16:00	T5-7 共生する菌根菌がコナラ実生の放射性セシウム吸収に与える影響：小河澄香(森林総合研究所)ら		D-17 異なる立木幹利用材積推定方法の精度検証：股晚(精密林業計測株式会社)ら		A-17 林業関連指標に基づく市町村類型と自伐型林業支援策との関係：多田忠義(農林水産省)ら
16:15	討論・調整		D-18 バックバック型LiDARとULSを用いた地形測量における下層植生の影響：諸橋佑星(京都大学大学院)ら		A-18 森林の生態系サービスに対する支払いの展開～ドイツの実情～：堀端人(東北農林専門職大学)
16:30	T5-8 植栽およびカリウム施肥開始から10年が経過したヒノキのセシウム137濃度：小松雅史(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら		討論・調整		討論・調整
16:45	T5-9 高線量地域を含む森林のための森林資源利用システムの開発と実証：小川秀樹(福島県林業研究センター)ら		D-19 3次元レーザを用いた倒木による微気象への影響評価：富田明花(千葉大学)ら	学会企画 2	A-19 意思決定支援技術が自治体に届ける一研究成果の橋渡しに向けた試行錯誤－：鷹尾元(森林総合研究所)ら
17:00	T5-10 野生山菜の利用による内部および外部被ばく線量の推定：渡邊未来(国立環境研究所)ら		D-20 3次元点群によるスギ根曲がり形状の評価：平岡裕一郎(静岡県立農林環境専門職大学)ら		A-20 森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の課題と展望－栃木県の事例より－：山本美穂(宇都宮大学)ら
17:15	T5-11 福島県双葉郡の自然環境に対する住民の意向：藤野正也(福島大学)ら		D-21 ドローンレーザを用いた機械学習による森林内ササ分布の把握：菊地未宙(千葉大学大学院)ら	国際交流会	A-21 森林管理業務の担当者が持つ知識に対する認識：石崎涼子(森林総合研究所)ら
17:30	討論・調整		討論・調整		A-22 北海道十勝川流域における造林補助金の選択と活用：尾分達也(北海道大学)ら
17:45					討論・調整
18:00					
18:15					
18:30					
18:45					

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月22日午前 1/2

会場	W109 (総合研究棟)	S11 (農学部)	S12 (農学部)	N11 (農学部)	N13 (農学部)	S21 (農学部)	S22 (農学部)
開始時刻	植物生態	風致・観光1	教育2	造林2	立地1	防災・水文1	動物・昆虫1
9:00	H-1 タイ熱帯季節林に共存するタケ類2種の形態的な山火事耐性形質：齋藤智之（森林総合研究所）ら	B-1 Integrated Assessment of Protected Areas in Myanmar after COVID-19 and 3-year political conflict: NyeinChan (Kyoto University of Advanced Science) ら	C-6 地域固有の生物に着目した教育から森林環境教育の展開への課題：杉浦克明（日本大学）	E-4 富山県におけるコウヨウゼン植栽木の初期成長：田和佑脩（富山県農林水産総合技術センター）ら	I-1 スギ人工林における皆伐初期の硝化・脱窒機能遺伝子からみた窒素動態：藤村光希（京都大学）ら	J-1 流域内の流木生産量と流路内滞留特性を考慮した流木動態評価：中島啓太（名古屋大学大学院）ら	L-1 白山における自動撮影カメラによるニホンジカの侵入状況調査2024年：近藤崇（石川県白山自然保護センター）ら
9:15	H-2 表層崩壊後のレガシー活用緑化における植生回復の決定要因の解明：重野真修（北海道大学）ら	B-2 COVID-19流行下における自然環境への訪問頻度の変化：SLEPT Study：森田えみ（(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	C-7 「みえ森林ワークブック」を活用した小学校6年生における森林環境育の実践：服部真一（三重県松阪市立德和小学校）ら	E-5 スギ及びコウヨウゼン植栽地におけるウサギ食害：赤井広野（鳥取県）	I-2 気象条件の異なるヒノキ林における窒素と水資源の相対的重要性：稲垣善之（森林総合研究所）ら	J-2 流木の流下、堆積過程の数値シミュレーション：鈴木拓郎（(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	L-2 斜面崩壊後の木柵と防塵柵の設置が哺乳類利用頻度へ与える影響：高橋奈々（北海道大学）ら
9:30	H-3 鳥取県におけるナラ枯れ跡地の植生状況：三浦功次（鳥取県林業試験場）	B-3 富士山吉田ルート安全登山対策の評価：関係者の聞き取り調査から：福島雅之（北海道大学）ら	C-8 多摩森林科学園におけるきのこ園鑑企画展の試み：長谷川絵理（多摩森林科学園）ら	E-6 スギ第二世代精英樹候補木および第一世代精英樹のコンテナ苗の成長：藤本浩平（高知県立森林技術センター）	I-3 Assessing Nitrate Dynamics and Environmental Drivers in Mountain Streams of Kyushu Main Island: MaungNay Lin (Kyoto University) ら	J-3 室内実験による植生密度の違いを考慮した斜面崩壊と土砂流動性評価：五味高志（名古屋大学）ら	L-3 ニホンジカ不嗜好性植物の成り分け分析：古澤優佳（東北農林専門職大学）
9:45	討論・調整	討論・調整	C-9 佐渡島におけるサイエンスカフェの取り組み：崎尾尚（新潟大学）	討論・調整	I-4 花崗岩からなる森林流域における約25年間の深流水質の変化：岸本光樹（東京大学）ら	討論・調整	討論・調整
10:00	H-4 北アルプス立山における温暖化と森林帯の上昇：石田仁（富山県農林水産総合技術センター 森林研究所）ら	B-4 国立公園における協力金の支払いを促進する要因について：愛甲哲也（北海道大学）ら	C-10 森林内音楽演奏の聴取方法による認識の差異：現地とオンラインの比較検討：中村和彦（東京大学）ら	E-7 スギ樹幹解析による系統別樹高成長と環境要因に基づく樹高成長モデルの対比：福井遼（佐賀県林業試験場）ら	I-5 落葉広葉樹二次林における樹幹流と林内雨の水質：山下多聞（島根大学）ら	J-4 2024年能登半島地震による斜面災害の特徴と9月豪雨による土砂流出：柳井清治（石川県立大学）ら	L-4 奈良県におけるブナ科樹種の豊凶とツキノワグマの秋季の出没（第2報）：青山祐輔（奈良県）ら
10:15	H-5 Effect of El Niño drought on seedling dynamics in a seasonally dry tropical forest in Northern Thailand: NUTIPRAPUNPRAPAWADEE (The University of Tokyo) ら	B-5 北アルプス・太郎山～北ノ岳間の地形と人為的攪乱について：大宮徹（NPO法人 富山県自然保護協会）ら	討論・調整	E-8 過去の土地利用がスギ人工林の樹高成長に与える影響：福井翔宇（株式会社バスコ）	討論・調整	J-5 能登半島北部における令和6年能登半島地震による亀裂発生箇所の研究：滝澤みちる（株式会社バスコ）ら	L-5 齧歯類による分散型貯食は森林火災後の植生回復に貢献するか？：大河龍之介（京都大学）ら
10:30	H-6 亜高山帯林における地表土マウンド・倒木上での実生バンク成立状況の違い：杉田久志（元森林総合研究所）ら	B-6 世界自然遺産小笠原諸島における複数の観光ガイド制度の変遷とその関係：武正憲（東洋大学）ら	C-11 中学校の総合的な学習の時間における地域資源を活かした自然体験活動：山田亮（北海道教育大学岩見沢校）ら	E-9 農地跡地での植栽木の成長と土壌の関係：園田葉央（鳥取県林業試験場）	I-6 落葉広葉樹二次林におけるリターフォールによる重金属類の還元：入江業紗（島根大学）ら	J-6 能登半島地震による北部地域の山地災害を対象とした広域判読調査報告：鈴木廉（株式会社バスコ）ら	L-6 ツキノワグマによるガンコウランの垂直種子散布：酸素安定同位体による推定：高橋秋一（長野大学）ら
10:45	討論・調整	討論・調整	C-12 中学校の総合学習におけるシカ捕獲の取扱い：柳澤賢一（長野県林業総合センター）ら	討論・調整	I-7 三瓶演習林の16年生スギ人工林地上部における金属元素蓄積：穴澤颯馬（島根大学）ら	討論・調整	討論・調整
11:00	H-7 ミズナラが豊作に至る途は1つではない：19年間の種子トラップデータの解析：正木隆（国立研究開発法人森林研究・整備機構）	B-7 緑地景観の主観的認識と客観的指標との関連性：梅澤弘一（早稲田大学）ら	C-13 学生を対象とした砂防えん堤モデル実験の授業実践：浅井能登（上越教育大学）ら	E-10 低コスト再造林プロジェクト紹介：田中賢治（国土防災技術株式会社）	I-8 暖温帯林小流域におけるCO ₂ 交換量に対する河川経由炭素流出量の割合：高木正博（宮崎大学）ら	J-7 気候変動が斜面崩壊発生危険降雨に及ぼす影響：経隆悠（(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	L-7 沖縄島におけるソテツシロカイガラムシの被害実態とその薬剤防除：辻本信志（一般財団法人沖縄美ら島財団）ら
11:15	H-8 秋田県内におけるブナの整熟生産の地域間差：木村恵（秋田県立大学）ら	B-8 Socioeconomic Inequalities in Urban Forest Accessibility: A Comparative Study in Metropolitan Cities in Japan: 方清平 (Kobe University)	C-14 学食からはじめる脱プラスチック竹箸プロジェクト：禮浦正子（京都大学）ら	E-11 グイマツ雑種F ₁ 低密度植栽実証林の植栽後20年間の生残と成長：中川昌彦（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場）ら	I-9 Linking fine root traits to belowground carbon dynamics in middle-aged plantations of four tree species: 林承源 (Kangwon National University) ら	J-8 Response of overland flow, soil and litter erosion to thinning in a Japanese cypress plantation: フアラナクモイン（東京大学）ら	L-8 チョウセンゴヨウにおける樹幹注入農薬の残留とリスク評価：金俊憲（国立山林科学院）
11:30	H-9 カヤの平ブナ成熟林における葉群の水平・垂直分布の5年間の変化：植田時（筑波大学）ら	B-9 Analysis of People's Perceptions of Urban Green Spaces and Their Environmental and Socioeconomic Factors: 胡宇軒（神戸大学）	C-15 林業×ボドゲ×甲子園：遊びと競争で深める新たな林業教育プログラムの実践：狩野和也（飛騨五木株式会社）	E-12 デゾレートAZ粒剤のドローン散布による除草効果：山田勝也（群馬県林業試験場）ら	I-10 Can two abandoned Phyllostachys stands be carbon source?: 韓楠虎（九州大学）ら	J-9 山地流域における豪雨時の流出応答を長期観測データから評価する：浅野友子（東京大学）ら	L-9 低コスト樹幹注入法による小径木への樹幹注入の施工結果：小倉晃（石川県農林総合研究センター 林業試験場）ら
11:45	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
12:00	ポスター発表の質疑応答（対面会場） 〔高校生ポスター：12:00-14:00〕 〔一般ポスター：13:00-14:00〕						
12:15							
12:30							
12:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月22日午前 2/2

会場	N21 (農学部)	N23 (農学部)	S31 (農学部)	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)	小講堂 (学術交流会館)
開始時刻	生理	遺伝・育種 1	経営 3	微生物 1		林政 3	
9:00	G-1 スキャナー法と深層学習を用いた細根フェノロジー解析システム：成果と課題：森健介（兵庫県立大学）ら	F-1 スギミニチュア採種園におけるクローン毎の着花及び種子の特性：中島剛（青森県産業技術センター・林業研究所）ら	D-22 UAVと航空機レーザ計測による樹種判別～特微量抽出改善と外部検証～：星川健史（静岡県立農林環境専門職大学）ら	M-1 ポプラ-ウラムラサキ間におけるクロスキングダムsRNAの探索：岡部信（東京大学大学院）ら		A-23 市町村森林ビジョンの策定プロセスと施策内容に関する実態分析：吉川大輔（東京大学大学院）ら	
9:15	G-2 山岳域において樹木の葉と根の非構造性炭水化物の季節変化は連動するの？：橋本裕生（信州大学）ら	F-2 スギ採種園におけるカメムシ類の季節変動と加害が発芽率に及ぼす影響：中川湧太（兵庫県立農林水産技術総合センター）ら	D-23 Tree component classification using UAV LiDAR-derived point cloud and Attention-PointNet++ deep learning：胡楠（東京大学）ら	M-2 ポプラにおける外生菌根形成を制御するmicroRNA319aの分子機構の解明：練春蘭（東京大学）ら		A-24 北海道民有林における森林資源管理制度の実情と課題：岩田聡（北海道大学）ら	
9:30	G-3 ミズナラ・コナラ苗の木部形成と通水の季節変化：福田健二（東京大学）ら	F-3 小型徳と深型セルトレーを活用したサガンスギの挿し木育苗技術の開発：柴田晴矢（佐賀県林業試験場）ら	D-24 AIとドローンレーザ計測による単木樹種分類及び林相区分図の作成：鄧送求（信州大学）ら	M-3 Characterization of fungal-specific transcription factors in <i>Cenococcum geophilum</i> regulating ectomycorrhizal formation：唐雨滢（東京大学）ら		A-25 森林開発に関わる我が国諸制度の運用実態：木村憲一郎（富士大学）	
9:45	G-4 常緑針葉樹4種における冬季の光化学系タンパク質の変動と光化学系の応答：成田あゆ（北海道立総合研究機構林業試験場）ら	F-4 葉面吸水と高温順化による難発根性スギ挿し木品種の発根促進：江島淳（佐賀県林業試験場）	D-25 UAV画像と機械学習を組み合わせた樹冠抽出及び樹種分類：若月大輝（東京理科大学）ら	討論・調整		A-26 中国西部都市森林の動的モニタリング：32年間貴陽市における土地被覆変化：BANHOUHENG（神戸大学）	
10:00	討論・調整	F-5 低温貯蔵したヒノキ実生コンテナ苗の植栽後活着率と初期成長：大平峰子（森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター）ら	討論・調整	M-4 菌根から滲出する酵素の活性はアカマツ実生の成長に影響するのか：吉岡隼人（東京農業大学大学院）ら		A-27 台湾と日本における保安林制度の違いとその要因：加藤葉月（筑波大学）ら	
10:15		討論・調整	D-26 深層学習によるUAV画像からの広葉樹の分類-有効な画像解像度の検証-：大原圭太郎（島根大学）ら	M-5 日本産マツ属の外生菌根菌埋土胞子群集の種構成と多様性パターン：阿部寛史（東京大学大学院）ら		討論・調整	
10:30	利用 1	F-6 スギ交配系統の若齢期における成長および材質と優良候補木の選抜：袴田哲司（静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター）ら	D-27 TreeQSMを用いた広葉樹測定精度の検証：山田誠太郎（千葉大学大学院）ら	M-6 屋久島の人工林と天然林のスギ根圏のアンモニア酸化アーキアの群集構造：松田陽介（三重大学大学院）ら		A-28 大規模言語モデルを用いた森林環境議与税に関する県議会議事録解析：大森宏（東京大学）ら	
10:45	K-1 山地区分と林道損壊の関係：矢部浩（鳥取県林業試験場）	F-7 日本におけるテーダマツ・スラッシュマツの造林可能性を探る：笹田勇麻（東京大学）ら	D-28 UAV-LiDARデータを用いた広葉樹林の林分材積推定：齋藤英樹（森林総合研究所）ら	討論・調整		A-29 経営規模および事業構成別にみた森林組合の収益性に関する検討：松本美香（高知大学）	
11:00	K-2 Automated Long-Term Productivity Analysis of Feller Bunchers in Whole-Tree Harvesting in British Columbia, Canada：LahrsenSteffen (Utsunomiya University) ら	F-8 日本国内のコウヨウザン林分を対象とした成長および材質に関する遺伝的評価：平尾知士（森林総合研究所林木育種センター）ら	D-29 3波長同時計測航空機LiDARデータを用いた広葉樹の樹種間特徴の比較：山口大樹（名古屋大学大学院）ら	M-7 The ecological patterns of the key arbuscular mycorrhizal fungi detected in the roots of <i>Cryptomeria japonica</i> ：DJOTANKevin (三重大学) ら		A-30 長野県佐久地域カラマツ人工林の主伐・再造林動向-伐採届による分析-：岸野奏（東京大学大学院）ら	
11:15	K-3 大分県の皆伐作業における欧州型CTLを導入した作業システムの生産性分析：有賀一広（宇都宮大学）ら	F-9 全国抵抗性・精英樹・野外集団クロマツ・アカマツの資源機能的核SSR評価：岩泉正和（森林総合研究所林木育種センター関西育種場）ら	討論・調整	M-8 土壌DNAを指標にした日本産黒トリュフ <i>Tuber himalayense</i> 定量方法の確立：山口宗義（国立研究開発法人 森林総合研究所）ら		A-31 林業関係者間の意識共有による持続可能な森林経営への影響に関する考察：石佳凡（早稲田大学）ら	
11:30	K-4 伐木前地帯作業がハーベスタ伐木作業に与える影響：渡辺一郎（地独）北海道立総合研究機構林業試験場）ら	F-10 キタゴヨウ最北限孤立集団の遺伝的動態：中西敦史（国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所）ら		M-9 針葉樹4樹種の根圏に生息する土壌生物群集構造：北上雄大（三重大学）ら		A-32 森林組合による主伐地集約の地域間比較～宮崎県南・県北地域の事例から～：新永智士（宮崎大学大学院）ら	
11:45	討論・調整	討論・調整		討論・調整		討論・調整	
12:00	ポスター発表の質疑応答（対面会場） 〔高校生ポスター：12:00-14:00〕 〔一般ポスター：13:00-14:00〕						
12:15							
12:30							
12:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月22日午後 1/2

会場	W109 (総合研究棟)	S11 (農学部)	S12 (農学部)	N11 (農学部)	N13 (農学部)	S21 (農学部)	S22 (農学部)
開始時間							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45	ポスター発表の質疑応答 (対面会場)						
14:00	S10 北海道の広葉樹	風致・観光 2	S8 森林教育の発展	造林 3	立地 2	防災・水文 2	動物・昆虫 2
14:15	S10-1 RSデータを用いた広葉樹資源量の把握：針葉樹人工林内の広葉樹を対象に：蝦名益仁(地方独立行政法人北海道立総合研究機構)ら	B-10 東京23区民の森林への関心・訪問に関する調査報告：小田龍聖(森林総合研究所)ら	S8-1 環境倫理学から見た森林、森林から見た環境倫理学：博物学的体験からの考察：太田和彦(南山大学)	E-13 森吉山麓高原自然再生事業におけるアノ植栽木の成長と植生の再生：沼宮内信之(秋田県林業研究研修センター)ら	I-11 近赤外分光分析による森林土壌の保水性の推定：関口寛人(森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	J-10 数値シミュレーションを用いた岩盤地下水が流出水量に与える影響の検証：正岡直也(京都大学)ら	L-10 マツノサイエンチュウと在来近縁種の共存下における個体群動態：池田優月(明治大学)ら
14:30	S10-2 北方広葉樹林における天然更新促進施策法：石橋聰(森林総合研究所)ら	B-11 森林資源情報を活用した森林園地景観の評価/予測技術の開発：高山範理(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	S8-2 森林活用で創る自然保育モデルと子どもの未来：藤井徳子(金沢学院大学)	E-14 岩手県の人工林皆伐跡地における大型草食動物の採食量推定：酒井敦(森林総合研究所東北支所)ら	I-12 地形の異なる丘陵地において火山灰が土層発達と土壌特性に及ぼす影響：渡壁卓磨(森林総合研究所)ら	J-11 白坂流域内入れ子伏小流域の流出特性—実測流量と浸透数値計算による解析—：森貞完太(東京農工大学)ら	L-11 マツノマダラカミキリ放飼により効率よくクロマツに病徴再現するための条件：小澤社太(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所)ら
14:45	S10-3 北海道における広葉樹の付加価値を高める木材特性に着目した育林の可能性：仲谷朗(北海道大学)ら	B-12 里山景観の保全と観光の両立：佐渡金山ユネスコ世界文化遺産登録を事例に：大森結衣(京都大学)ら	S8-3 帯広の森における市民協働の森づくりと森林教育：日月伸(帯広の森・はくくーむ)	E-15 札幌市羊ヶ丘の樹木園に植栽されたカバノキ科樹木の雄花の着花数の年変動：倉本恵生(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)	I-13 森林土壌におけるメタンフラックスデータベース構築に向けた展望：森大貴(森林総合研究所九州支所)ら	J-12 山地森林流域の日米間比較による地質条件と水貯留特性評価：猪越翔大(名古屋大学)ら	L-12 野外網室において寄主丸太に誘引されたマツノマダラカミキリの日齢：江崎功二郎(石川県農林総合研究センター林業試験場)
15:00	S10-4 北海道産広葉樹の材質の一例：大崎久司(北海道立総合研究機構)ら	B-13 Kominka as a driver of Satoyama forest management: Potential citizen-participated research and actions：内山倫太(神戸大学)ら	S8-4 北海道大学研究林を利用したエコツアーの試み：中村誠宏(北海道大学)	E-16 Potential of Controlled Natural Tree Regeneration (GNRI) towards Urban Forest Management in Kampala city, Uganda. ネバラマヤムビン(Tokyo University of Agriculture)ら	I-14 高知県香美地域においてスギ成長に影響する立地要因：細川奈々枝(森林総合研究所四国支所)ら	討論・調整	討論・調整
15:15	S10-5 北海道における未利用広葉樹(シラカバ)の高付加価値利用の取り組み：鳥羽山聡(一般社団法人白樺プロジェクト)	討論・調整	S8-5 アウトドアツーリズムにおける地域資源を活かしたコンテンツ開発：武田丈太郎(北海道教育大学岩見沢校)	討論・調整	討論・調整	J-13 T-TDRセンサーを用いた土壌水分特性の野外計測：法利祐香(京都大学大学院)ら	L-13 温帯海岸林におけるタブノキに対するホシベニカミキリの影響とその生態：浅野涼太(白梅学園短期大学)
15:30	S10-6 広葉樹林を「一山いくら」ではなく「一本いくら」の価値で評価する：山下直子(森林総合研究所)	B-14 琉球諸島における御嶽聖域林の植生構造と保全管理の課題：陳碧霞(琉球大学)ら	S8-6 中学校技術科における森林教育の位置づけと現状：佐藤正直(北海道教育大学札幌校)	E-17 南九州の早生樹育林における台風被害事例：櫻井宮(宮崎大学)ら	J-14 加速度計による樹木振動データを用いた樹木への付着水分量推定の試み：南光一樹(国立研究開発法人森林研究・整備機構)ら	L-14 カシノナガキクイムシの根株から脱出数—甲府盆地の事例—：高柳達志(山梨県森林総合研究所)ら	
15:45	S10-7 道産広葉樹の需要開発と高付加価値化：内田敏博(北海道木材産業協同組合連合会)	B-15 現代山村における焼畑の変容：石川県白山市白峰地域を事例に：上田隆太郎(名古屋大学大学院)ら	S8-7 木育を構成する内容を踏まえた教科横断的な学習の提案：東原貴志(上越教育大学)	E-18 Impacts of Planting Density on Carbon Cycling in Early-stage <i>Larix kaempferi</i> Plantations：宋揆虹(Kangwon National University)ら	J-15 竹林の遮断蒸発はなぜ少ないのか—付着水分量の推定—：篠原慶規(宮崎大学)ら	L-15 ナラ枯れ被害後の林分における林冠構造の変化：奥山雅隆(東京農工大学)ら	
16:00	S10-8 広葉樹の販路拡大を目指した新たなサプライチェーン〜北海道日高での検証：酒井明香(北海道立総合研究機構林産試験場)ら	B-16 ガーデンツーリズム施策で活用される森林管理要素：田中伸彦(東海大学)		E-19 列状間伐から15年後のヒノキ人工林における生育状況：宮本和樹(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	討論・調整	討論・調整	
16:15		B-17 国際協力における地域資源の活用 インドネシアのおが働活用事業を事例に：藍場将司(名古屋大学大学院)ら		E-20 広葉樹が混交した多雪地スギ人工林の20年間の動態：野口麻穂子(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所)ら	J-16 降水安定同位体比の長期変動が示す気候変動のシグナル：勝山正則(京都府立大学大学院)	L-16 コナラの豊凶に6月の気温が影響する？ハイロチョッキリ羽化との関係：平山貴美子(京都府立大学大学院)ら	
16:30		討論・調整		討論・調整	J-17 劣化が進行しつつある熱帯乾燥常緑林でのCO ₂ 吸収：劣化以前とどう変わった？：清水貴範((国研) 森林研究・整備機構)ら	L-17 水源林整備としての間伐が森林生態系に及ぼす効果の検証：谷脇徹(神奈川県自然環境保全センター)	
16:45				E-21 山形県金山町のスギ人工林における広葉樹推樹の分布と地形との関係：澤田佳美(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所)ら	J-18 日本全国の森林乾燥リスクマッピングにおける土層厚分布の重要性：岩崎健太(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所)ら	L-18 カブトムシ幼虫による落葉広葉樹二次林間伐材チップの分解促進：福田滯李(東京農工大学大学院)ら	
17:00				E-22 九州の人工林伐採後の未植栽地に成立した二次林の林分構造の変化(予報)：野宮治人(森林総合研究所)ら	討論・調整	L-19 早期落葉が漸進性害虫に与える影響—もし早期落葉しなかったら—：大澤正嗣(山梨県森林総合研究所)ら	
17:15				E-23 播種起源の40年生ミズナラ林の成長過程：初期の競合植生制御の効果：吉田俊也(北海道大学)ら		討論・調整	
17:30				討論・調整			
17:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月22日午後 2/2

会場	N21 (農学部)	N23 (農学部)	S31 (農学部)	S32 (農学部)	N31 (農学部)	大講堂 (農学部)	小講堂 (学術交流会館)
開始時間							
13:00							
13:15	ポスター発表の質疑応答						
13:30	対面会場						
13:45							
14:00	利用 2	遺伝・育種 2	経営 4	微生物 2		林政 4	学会企画 4
14:15	K-5 ヒノキ林において上方伐倒時のかかり木が残存立木間を通過する際の通過仕事:松本武(東京農工大学大学院)ら	F-11 日本の森林形成過程プロジェクトの紹介:津村義彦(筑波大学)ら	D-30 ドローンレーザーを用いた森林内空間情報取得技術:加藤顕(千葉大学)ら	M-10 岩手県奥州市のアカマツ1林分におけるマツ材線虫病の局地的自然終息:中村克典(国研) 森林研究整備機構森林総合研究所		A-33 北海道における造林作業の工程および労働力の現状:唐澤友輔(北海道大学)ら	
14:30	K-6 持続可能な森林経営の視点から見た中間土場の配置最適化に関する研究:尤陽宇(東京大学)ら	F-12 気候変動がもたらす生態学的機会:ニューカレドニア産 <i>Oxera</i> 属の適応放散:坂野慧悟(京都大学)ら	D-31 深層学習を用いた森林の3次元構造と音響指数との関係:安藤隆良(千葉大学)ら	M-11 寒冷地域のマツ枯死木からマツノサイセンチュウを効率的に検出するには?:相川拓也(森林総合研究所)ら		A-34 北海道における自伐型林業の経営実態:江川智也(北海道大学大学院)ら	高校生ポスター表彰式
14:45	K-7 森林計画区における中小規模木質バイオマス発電所の最適配置に関する研究:玉雄恒(東京大学)ら	F-13 プナの遺伝的多様性、集団構造およびデモグラフィの歴史:頼承筠(名古屋大学)ら	D-32 ドローンレーザーを用いた森林構造と種多様性の関係:吉原知世(千葉大学)ら	M-12 コンテナ苗で発生したスギ赤枯病の病徴と発生地での防除事例:陶山大志(鳥根県中山間地域研究センター)ら		A-35 南九州における造林と生産の事業変化~宮崎県森林組合を例に~:滝沢裕子(鹿児島大学)ら	
15:00	K-8 天然乾燥における間伐材丸太の含水率変化に与える影響要素に関する検討:叶柯嵐(早稲田大学)ら	F-14 日本固有シャクナゲ亜属の系統関係と遺伝構造:玉木一郎(岐阜大学)ら	D-33 森林内間伐作業における時間生産性およびエネルギー生産性向上に向けた検討:菅田拓和(早稲田大学)ら	M-13 拡大造林期に発生していたスギ赤枯病の遺伝的多様性:安藤裕明(森林総合研究所 九州支所)ら	学会企画 5	A-36 ウッドショックが残したものの:嶋瀬拓也(森林総合研究所)	
15:15	K-9 LiDAR技術を活用した広葉樹林のバイオマスエネルギー賦存量推計:武村大介(芝浦工業大学)ら	F-15 日本各地で一斉開花中のタケ類ハチクの遺伝構造:久本洋子(東京大学)ら	D-34 日本におけるスギ・ヒノキの「フェアブライズ」:守口海(信州大学)ら	討論・調整		討論・調整	
15:30	討論・調整	討論・調整	討論・調整	M-14 主要造林樹種から分離された暗色枝枯病菌の再評価:服部友香子(森林総合研究所)ら	日林誌の使い方	A-37 地域原木流通における原木市売市場の取引方法:高梨一竹(東京大学)ら	大学ツアー
15:45	K-10 2台のカメラを用いた遠く撮影による三次元動作解析手法の開発:小島尚人(東京農工大学)ら	F-16 日本および極東ロシアにおけるカラマツ属の遺伝的変異:渡辺洋一(千葉大学)ら	D-35 スマート林業を用いた大学発スタートアップの山村課題への挑戦:加藤正人(信州大学)ら	M-15 スギ苗木病害の再評価:升屋勇人(国研) 森林研究・整備機構・森林総合研究所)ら		A-38 節産業における広葉樹薪の流通構造と生産状況-熊本県天草市市深町を対象に:清水浩貴(鹿児島大学)ら	
16:00	K-11 林内3次元物体検出のためのゲームエンジンを利用した教師データ自動生成:中込広幸(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所)	F-17 スギの雄性不稔(MS2)候補遺伝子の同定:上野真義(森林総合研究所)ら	D-36 西川林業地に通じた地上レーザー測量システム活用方法の確立に向けた比較検証:藤原寛晃(株式会社大林組)ら	M-16 スギ林における森林環境と樹木病害発生状況との関係:東北地方での一事例:山下聡(森林総合研究所)ら		A-39 日本における広葉樹材に関する輸入需要モデルの推計:オークを中心に:榎悠宇至(森林総合研究所)ら	
16:15	K-12 グラップルローダによる丸太積載作業自動化手法の開発:伊藤崇之(森林総合研究所)ら	F-18 遺伝子発現から探るスギの耐寒性の種内変異:能勢美峰(国研) 森林総合研究所林木育種センター)ら	D-37 森林管理にクラウドGIS「森の案内人フォールパス」の活用:原佳輝(精密林業計測株式会社)ら	討論・調整		A-40 旧栗たばこ産地における1960年代の林野利用の実態と長山家のライフコース:角谷黎(東京農工大学大学院)ら	
16:30	K-13 自動走行フォワードのLiDAR SLAM点群マップから単木を抽出する手法の開発:瀧川瑞己(東京農工大学)ら	F-19 スギ不定胚形成細胞における不定胚成熟能と関連した発現遺伝子の探索:鶴田燃海(森林総合研究所)ら	D-38 地方税法第380条第3項例示地図等の調製手法による林地台帳地図修正の検討:和田陽一(朝日航洋株式会社)	M-17 ヒサカキ製袋掛病(新術)の発生生態と寄主範囲:市原優(国研) 森林機構 森林総合研究所関西支所)ら		討論・調整	
16:45	討論・調整	F-20 スギにおける乾燥ストレス応答性遺伝子発現と発現マーカー遺伝子:永野聡一郎(森林研究・整備機構)ら	D-39 リモートセンシング技術を活用した森林境界明確化-木曾町事例-:丸山拓見(精密林業計測(株))ら	M-18 クマ割ぎ被害木における菌類の検出位置とそれらの病原性、腐朽力との関連:鳥居正人(森林総合研究所)ら		A-41 鹿児島・屋久島の海上輸送施設遺構の林業史的意義:奥山洋一郎(鹿児島大学)ら	
17:00		討論・調整	討論・調整	M-19 ムネアカオオアリから分離される酵母は、「樹液酵母」なのか?:藤原力也(理化学研究所バイオリソース研究センター)ら	閉会式	A-42 秋田県における近代の国有林経営と地域社会:芳賀和樹(法政大学)	
17:15				討論・調整		A-43 大正期の朝鮮総督府営林廠における事業の改革:竹本太郎(東京農工大学)	
17:30						A-44 アメリカ林学形成過程における複数のルーツの検証:平野悠一郎(森林総合研究所)	
17:45						討論・調整	

ポスター一覧

: 学生ポスター賞の対象

部門	現地掲 示会場	ポスター 番号	現地 掲示日	講演者氏名	発表題目
林政		PA-1 #	3/21	陳 田	森林管理における公民連携手法の比較：公社造林と国有林分収造林を中心に
		PA-2 #	3/21	平山 和虎	山道の整備・管理に関する研究動向
		PA-3 #	3/21	岩野 純奈	狩猟における自助・共助・公助の再検討：熊本県球磨川流域を事例に
		PA-4 #	3/21	Valgil Salgado Mariana	豪雨災害被災地の復興における景観管理の取り組み：熊本県山江町の事例
		PA-5 #	3/21	谷目 葉	公社林経営におけるカーボンクレジットの活用意義-秋田県・長崎県を例に-
		PA-6 #	3/21	陳 月	三瓶山エリアの木材資源を活用したおみやげ商品の開発と最適価格設定
		PA-7 #		酒井 友希乃	森林由来の炭素クレジット制度の実効性-カティンガンを事例にして
		PA-8 #	3/21	富塚 雅之	BtoC企業の森林認証に対する認識-環境報告書のトピックモデルによる分析-
		PA-9 #	3/21	穂園 直紀	ジビエの流通と普及について -鳥取県を事例として-
		PA-10 #	3/21	松田 愛子	東南アジアの熱帯林地域における参加型森林管理が地域住民に与える影響
		PA-11 #	3/21	吉元 舞依子	鳥取県木材産業の労働力問題
		PA-12 #	3/21	平田 楓佳	シイタケ原木流通の課題-鳥取県を中心に-
		PA-13	3/21	大塚 啓太	林業事業者がもつ生態系サービスに関する価値観の把握
		PA-14	3/21	笹田 敬太郎	センサスからみた森林組合による素材生産の伸びと川下側の木材需給との関係
		PA-15	3/21	三ツ井 聡美	森林の多面的機能の発揮に寄与する森林所有者の管理行動の実態
		PA-16	3/21	新倉 早織	養蜂業者による木本性蜜源の利用実態-栃木県の事例より-
		PA-17	3/21	黄 璇	市民科学の視角からみた愛知県の市民参加型森づくりの現状と課題
		PA-18	3/22	芳賀 大地	森林管理の責務に対する社会意識
		PA-19	3/22	積本 健太	鉄道林の持続可能性の検討
		PA-20	3/22	山本 紘輝	キャンプ場・グランピング場の地域貢献の可能性-鳥取県を事例として-
		PA-21	3/22	高畑 義啓	「官報」に見る明治期日本のキノコ中毒事例
		PA-22	3/22	高田 乃倫子	県立森林公園のバリアフリー化・ユニバーサルデザインの維持管理について
		PA-23	3/22	峰尾 恵人	森林化学産業の社会的受容性に関する基礎的考察
		PA-24	3/22	安達 啓介	森林経営の持続性を考慮した木質バイオマス発電のコスト分析
		PA-25		泉 桂子	分収造林事業の現状-滋賀県および徳島県を事例として-
		PA-26		大塚 生美	公有林の経営主体と総有の変化
		PA-27		吉田 開	森林認証ラベル普及のために必要な取組み-Best Worst Scalingによる調査-
		PA-28		宮本 麻子	森林生態系多様性基礎調査でみるスギ人工林の林分構造-3所有形態の比較
PA-29		大野 朋子	産官協働の森林保全への取り組みと課題-近畿地域を例として-		
風致 ・観光	学術交 流会館 ロビー	PB-1 #		胡 睿喆	東京における都市林と環境正義：東京23区の分析からの試論
		PB-2	3/21	神宮 翔真	インターネット上の生物投稿写真に見る都市域森林の文化的サービス
		PB-3 #	3/21	島津 凜太郎	緑の基本計画における緑被率把握手法の現状と課題
		PB-4		豆野 皓太	野生動物管理に対する市民の選好：部分プロフィール選択実験の適用
		PB-5 #	3/21	粒来 綾香	札幌市の自然歩道におけるヒグマの出没が登山者の意識・行動に与えた影響
		PB-6 #	3/21	王 嘉钰	夏季高温による都市緑地のレクリエーション便益の変化：札幌市を事例として
		PB-7 #	3/22	亀崎 萌衣	徳之島における世界自然遺産登録に向けた官民の協議と各種委員会の動向
		PB-8 #		千葉 泰史	Measuring visitors' place attachment and recreational value in Chubu-Sangaku National Park
		PB-9 #	3/22	妹尾 咲絵子	知床五湖における人とヒグマの軋轢緩和のための規制に対する利用者の意識
		PB-10 #	3/22	小山 菜奈	滋賀県比良山麓における信仰を通じた自然資源の利用
		PB-11 #	3/22	古林 まひろ	北海道黒松内町の「生物多様性地域戦略」に関わる取り組みの現状と展望
		PB-12		レスタリ リナドウィ	Agroforestry Farmers Intentions, Perceived Impact of Climate Change and Adaptation Strategies
教育		PC-1 #	3/21	趙 晶	スケッチ学習による森林教育：短期および中期の記憶による評価
		PC-2		倉本 宣	川崎市黒川における里山教育と森林教育
		PC-3 #		島村 悠	児童が描く絵画にみる森林への認識-山村部と都市部の児童の違い-
		PC-4	3/21	森嶋 佳織	ネイチャーゲームの保育動画の開発
		PC-5 #		小川 高広	林業大学設置の推移から見られる名称の変化
経営		PD-1 #		金子 徹平	福岡県における保安林種別の立地特性および伐採傾向
		PD-2		西園 朋広	日本のスギ林における最適伐期の地理的分布
		PD-3		矢田 豊	モバイルGISアプリの実用度評価
		PD-4	3/21	竹重 龍一	日本全国の天然林試験区における樹冠木データベースの構築
		PD-5		江口 則和	i-Tree EcoとUAV空中写真測量を用いたスギ・ヒノキの貨幣価値評価
		PD-6 #		上岡 洸太	樹高成長データとALSデータによる立地環境別の地位推定
		PD-7	3/21	松本 純	機械学習を用いたスギ地位マップ作成における学習スケールの影響
		PD-8	3/21	吉永 慶治	時系列航空写真からの数値樹冠高モデル (DCHM) による樹高成長曲線の再現
		PD-9		田中 邦宏	隣接する林木の樹頂の位置関係と成長について
		PD-10	3/21	豊田 信行	久万高原町スギ群状伐採林の後継樹成長と隣接エリアとの空間検討 II
		PD-11 #	3/21	小林 紀晴	若齢ヒノキ林における成長動態把握
		PD-12		福本 桂子	霧がアカエゾマツの長期直径成長に与える影響
		PD-13	3/21	小宅 由似	iPad Pro対応アプリForestScannerを用いたDBH測定
		PD-14	3/21	伊藤 尚輝	ネットワーク型RTK-GNSSを用いた造林地における周囲測量の作業時間調査
		PD-15 #		山田 風由音	ALSデータによる森林内路網検出
		PD-16 #	3/21	宮崎 太梓	廉価版ドローンレーザーを用いた森林計測ポテンシャルの評価
PD-17	3/21	中村 仁駿	平成30年航空レーザー計測データから得られた森林資源データの精度検証		
PD-18	3/21	祖父丈 侑紀	Sentinel-2データを用いたスギ・ヒノキ判別におけるパラメータの検討		
PD-19		山本 一清	衛星画像による単木レベル森林計測精度の検討-一次世代小型衛星の利用可能性		
PD-20 #	3/21	相原 直生	個体領域抽出と点群識別を組み合わせたスギ単木樹冠抽出手法の実証		
PD-21		藤井 創一朗	富山県における航空レーザ解析のための汎用胸高直径推定式の作成		
PD-22 #	3/21	李 瀚鎔	Reconstructing GEDI AGBD and DBH Models for Japanese Forests: Differentiating Whole-Tree and Canopy		
PD-23 #	3/21	Karthigesu Jayavanan	Individual tree detection in a complex mixed conifer-broadleaf forest using UAV RGB and multispectral imagery		
PD-24 #	3/21	HTOO Kyaw Kyaw	Crown-based allometric models for estimating stem diameter and biomass in Japanese natural forests using UAV-LiDAR		
PD-25 #	3/21	大西 一步	疑似HDR画像を用いたSfMにおける林冠ギャップの点群生成改善手法の開発		
PD-26		中谷 清人	航空レーザーデータに基づく森林構造とクワガタ相を指標とした森林評価		
PD-27 #	3/22	内山 心愛	UAV空撮で得られた多時期合成画像を用いた樹種分類		
PD-28		加治佐 剛	ドローンレーザー計測によるツバキ林の抽出		

ポスター一覧

: 学生ポスター賞の対象

部門	現地場 示会場	ポスター 番号	現地 掲示日	講演者氏名	発表題目
経営	学術交 流会館 ロビー	PD-29 #	3/22	福井 喜一	LiDARデータに基づいたアベマキ・コナラ林の再生ポテンシャルの評価
		PD-30		松英 恵吾	足尾荒廃山地における長期時系列空間データによる植生回復評価
		PD-31	3/22	岡野 航太郎	LiDARを用いた構造的多様性定量化：知床における森林タイプ間での比較
		PD-32		前田 佳子	ナラ枯れ被害木検出のための衛星画像による時系列解析
		PD-33 #	3/22	國分 菜美	ipad 3Dスキャンを用いた空間解析による枯死木の現存量の推定
		PD-34 #	3/22	坂東 洋祐	ラジコンヘリLiDARデータを用いたブナ林の樹幹計測
		PD-35 #	3/22	Kankong Piyapon	Monitoring Autumn Phenology of Individual Tree Crowns by Comparing Ground-Based and Remote Sensing Observations
		PD-36	3/22	トゥン ニョ ミイ	Spatial Localization of Broadleaf Species in a Mixed Forest Using UAV Multispectral Imagery and Deep Learning
		PD-37	3/22	小谷 英司	航空レーザ計測による落葉広葉樹林の林分材積推定手法の開発
		PD-38		和田 のどか	地上LiDAR-SLAMにおける材積推定の検討
		PD-39		龍原 哲	樹冠バイオマスを推定するための立木因子の検討
		PD-40		伊尾木 慶子	熱帯林復元事業開始25年後の植栽木の生存率と地上バイオマス貢献度の評価
		PD-41 #	3/22	阪内 琢貴	衛星画像バンド値による森林バイオマス推定と学習アルゴリズムの比較検討 発表取消
		PD-42 #	3/22	隔間 芳野	J-クレジット制度の森林モニタリングにおける航空機LiDARの有用性
		PD-43		太田 徹志	時系列空中写真を用いた森林変化推定
		PD-44 #	3/22	PUNGULANI Moses Michael	Analysis of Forest Cover Change Detection in Central Malawi
		PD-45 #	3/22	Beu McJessey Leon Brian	Assessing Forest Change in Ridge-to-reef Landscape of Solomon Islands using Multi-temporal Satellite Data
		PD-46	3/22	梅木 清	ウルシ樹液採取量時系列のモデリング
		PD-47		桑野 泰光	福岡県における空中写真と現地調査に基づく竹林分布拡大の評価
		PD-48 #	3/22	教重 涼子	日本では過去37年間において広葉樹林の非分断化が発生しているのか？
		PD-49 #		吉澤 佑人	空中写真を用いた深層学習による竹林把握
		PD-50		田中 真哉	過去の空中写真を用いたオルソ写真およびDSMの作成：1991年能登の事例
		PD-51		土井 裕介	流木対策の効果検証と地上LiDARの有効性評価
		PD-52 #		- Kyaw Win	Influence of forest management practices on site quality of Japanese cedar and cypress plantations
		PD-53 #	3/22	坂本 竜哉	異なる森林施業が南三陸町のスギ人工林下層植生に与える影響の比較
		PD-54		溝上 展也	帯状伐採による針広混交林化の可能性
		PD-55		園原 和夏	対馬市上県町における地域性を考慮した森林ゾーニングの検討
		PD-56		高野 翼	森林施業データを活用した作業効率及び生産性の評価
		PD-57	3/22	北川 涼	広葉樹の原木価格を基準にした森林の価値に及ぼす樹種の多様性の影響
		PD-58 #	3/22	宮本 知明	木材サプライチェーンに関する研究
PD-59 #		十島 慎太郎	カンボジアにおけるコミュニティ林業と大規模土地収用の配置要因の分析		
PD-60 #		古田 光樹	ミャンマーの恒久林が有する森林保全効果に政治情勢が及ぼす影響		
造林	学術交 流会館 第一会 議室	PE-1		新田 響平	海岸林におけるクロマツ種子散布量の違いとその要因
		PE-2	3/21	今 博計	グルタチオン配合肥料の葉面散布がグリーンラーチの種子発芽に及ぼす影響
		PE-3		富沢 裕子	播種時期の違いとガラス室の使用がスギコンテナ苗の成長に与える影響
		PE-4 #	3/21	向山 恭弘	ウルシコンテナ苗の当年生施肥量が次年度成長に及ぼす影響
		PE-5 #	3/21	瀬戸 裕里加	多摩地域に自生するクロモジのクローン苗育成の試行
		PE-6	3/21	澤田 祐作	高知県領北地域における高標高ウバメガシ人工林の初期成長
		PE-7 #		但井 茜香	広葉樹苗木生産の現状と課題
		PE-8	3/21	飛田 博順	スギコンテナ苗の干害リスクを高める土壌水分の閾値
		PE-9	3/21	塚原 雅美	スギ人工林内に植栽したブナコンテナ苗の成長と育苗条件の影響
		PE-10	3/21	柴崎 一樹	Effectiveness of long rooted container seedlings designed for restoration of tropical dry forest in Kenya
		PE-11	3/21	齋藤 隆実	高標高の造林地で、シカ食害に対する単木保護用具がスギ苗木へおよぼす影響
		PE-12		宇敷 京介	岐阜県内で再造林の初期に出現する植生の分類
		PE-13		八木 貴信	熊本地方における管理不足人工林の森林構造と間伐方法の検討
		PE-14 #	3/21	庄司 風	間伐後の林床の光環境勾配がブナ実生の成長特性に与える影響
		PE-15	3/21	伊藤 哲	スギ幼齢植栽木の期間成長量はいつまでも期首形状比に支配される
		PE-16 #	3/21	稲葉 光飛	スギ幼齢造林木の被圧に対する樹冠発達の可能性は系統によって異なる
		PE-17	3/21	平田 令子	下刈り省略下での特定母樹スギコンテナ中苗の8年間の成長と競合状態
		PE-18	3/21	安達 直之	下刈りの早期終了がスギの植栽木と競合植生に与える影響
		PE-19	3/21	山岸 極	雑草木との競合状態に基づくスギ幼齢木の被圧樹冠量の推定
		PE-20	3/21	角田 悠生	大雑把な下刈りによって残された雑草木が植栽木の生残と成長へ与える影響
		PE-21	3/21	小林 和也	除草剤による省力化の検討
		PE-22		宮本 尚子	積雪地域における下刈り省力の初期成長における影響
		PE-23 #		岡山 智咲	下刈り期間における競合植生の変化がスギ幼齢木の成長に及ぼす影響
		PE-24		渡邊 仁志	育苗時の元肥条件が異なるヒノキ実生コンテナ苗の植栽後7年間の成長経過
		PE-25 #	3/21	坂井 勇紀	モウソウチク林とスギ-ヒノキ混交林における炭素貯留量の比較
		PE-26 #	3/21	亀井 優志	中央アルプス亜高山帯常緑針葉樹林におけるバイオマスの時空間変動
		PE-27 #	3/21	本郷 悠夏	冷温帯天然生林での択伐施業後の蓄積回復要因-植物機能形質に注目して-
		PE-28	3/22	小野田 雄介	スギの幹成長の経年変化の系統間差とその原因
		PE-29 #		小田 巻 功大	長伐期施業に誘導するための直径成長に必要なスギの樹冠量指標の検討と推定
		PE-30	3/22	飯田 玲奈	群馬県高崎市におけるカラマツ及びグリーンラーチの初期成長
PE-31 #	3/22	江縁 紗耶	ウルシ林の地位指数に影響を及ぼす土壌理化学性		
PE-32	3/22	田中 樹己	新潟県内のブナ二次林における樹高成長曲線の調整		
PE-33 #	3/22	菅野 千潤	ブナのマスティングが樹冠構造と光環境・下層木の成長に与える影響		
PE-34	3/22	田中 憲蔵	タイにおける若齢チーク木の高さ方向の心材形成		
PE-35 #		野田 佳希	処理方法の違いによるモウソウチク(<i>Phyllostachys edulis</i>)の成長		
PE-36		原山 尚徳	茨城県における北海道産ヤナギ2種13系統の生育と生理生態特性の比較		
PE-37		磯田 圭哉	早生樹コウヨウザン、センダン、ユリノキ、チャンチンの初期成長と種間比較		
PE-38		藤田 徹	予報 単木保護資材を使用したコウヨウザンの獣害		
PE-39	3/22	香山 雅純	アカメガシワの育成に対する堆肥の成長促進効果		
PE-40 #	3/22	新井 勝利	将来木施業の間伐による林床光環境の変化とその予測モデル		
PE-41 #	3/22	日下 真桜	スギの成長速度の系統間差に影響を及ぼす樹冠内の光環境の評価		
PE-42	3/22	伊藤 幸介	スギ人工林内に植栽されたブナの成長に光環境が及ぼす影響		

ポスター一覧

: 学生ポスター賞の対象

部門	現地揭示会場	ポスター番号	現地揭示日	講演者氏名	発表題目		
造林		PE-43 #	3/22	相川 ゆきえ	異なる光環境がヤブツバキ苗の成長に与える影響		
		PE-44	3/22	和泉 柚子葉	旧薪炭ブナ林の豊作後の間伐は実生の定着を促すか？発生から6年間の動態		
		PE-45	3/22	原谷 日菜	ミズナラの更新補助作業：かき起こし地における林地残材の利用の可能性		
		PE-46		山崎 遥	土壌特性および林相からみたオニグルミの分布状況		
		PE-47		岡山 侑子	ホオノキ実生の生育に関する遺伝および環境要因		
		PE-48	3/22	石川 菜	モンゴル国トブ県における南側斜面に生育する針葉樹の生育地形		
		PE-49		岩澤 勝巳	令和元年房総半島台風の影響における天然更新状況		
		PE-50		久田 善純	岐阜県郡上市の人工林皆伐跡地における天然更新の阻害要因の検討		
		PE-51 #	-	森田 惇平	阿武隈山地における放置された広葉樹林の萌芽更新を利用した再生の可能性 発表取消		
		PE-52 #	3/22	鈴木 ひかり	庄内海岸林の立木密度の違いが飛砂捕捉機能に与える影響		
		PE-53	3/22	津山 幾太郎	将来の気候を見据えたトドマツ苗の最適な産地を予測する		
		PE-54 #	3/22	下田 花怜	ヒバ天然林に対する択伐が上木の成長と天然更新に与える影響		
		PE-55		狩野 敏規	作業観察からみた造育林の機械化に向けた現場構築の必要性		
		PE-56	3/22	城田 徹夫	モンゴル北東部ヘンティ地方におけるカラマツ-カンパ混交林の林分構造		
		PE-57	3/22	壁谷 大介	機械学習に向けた航空レーザー測量データに基づく樹冠高推定方法の検討		
		PE-58 #	3/22	真鍋 光生	スギ林内の環境要因が蘚苔類の種組成及び分布に与える影響		
		PE-59		太田 敬之	秋田県藤里町の天然スギ林伐採後に成立した林分の構造		
		PE-60 #	3/22	赤池 友樹	スギ人工林の帯状伐採16年後における広葉樹の更新状況とその要因		
		PE-61		伊東 康人	防鹿柵の開放による広葉樹植栽と植生への影響		
		PE-62	3/22	小岩 俊行	岩手県におけるスギ・ヒノキ人工林の広葉樹混交林誘導伐16年後の調査事例		
		学術交流 会館 第一会 議室		PF-1		三上 夏生	近畿地方の里山におけるコナラ集団の遺伝的特性と人為的影響の検討
				PF-2	3/21	南 淳	森林性クローナル低木ヤブコウジの条件的アポミクシスと遺伝的構造
				PF-3 #	3/21	岩木 呂 愛由	一塩基多型を用いたサワラ集団のクローン構造の解明
				PF-4 #	3/21	白谷 紗英	四国・紀伊半島地方における2倍体ダケカンパの詳細な分布域と遺伝的特性
				PF-5 #	3/21	岩瀬 友秀	一塩基多型を用いたアカガシとウラジロガシの遺伝的多様性と集団構造の推定
				PF-6 #	3/21	小沼 佑之介	熱帯アジア有用樹種・ファルカタの遺伝構造と集団動態の解明
				PF-7 #	3/21	中村 峻弥	土壌乾燥ストレスに対するブナ実生の発現変動遺伝子の産地間比較
				PF-8		内山 憲太郎	スギの気候適応遺伝変異と将来気候下での影響予測
				PF-9	3/21	伊藤 僚祐	ミズナラ-コナラ交雑帯における標高クライン移動を駆動する進化要因の検証
PF-10 #				Hapsari Marya Tiara	"Intra-specific variation of wood property in Red Meranti and an attempt to study their genome-wide association"		
PF-11 #	3/21			蔡 昕傑	トドマツにおけるモバイルLiDAR点群データに基づく形態形質のQTLマッピング		
PF-12 #	3/21			Meinata Alnus	Genome-wide association study of leaf and growth traits in teak progeny trial in Ngawi, Indonesia		
PF-13				坪村 美代子	関東育種基本区のスギ精英樹の雄花着花量に基づくゲノムワイド関連解析		
PF-14				加藤 珠理	ツクシヤマザクラの遺伝的特性と栽培品種との関わりについて		
PF-15				ワース ジェームズ	Comparative phylogeography of subalpine forest angiosperms in Japan and implications for conservation		
PF-16	3/21			稲永 路子	全国5ヶ所に設置されたキハダ産地試験地の初期成長および生残		
PF-17	3/21			福田 陽子	アオダモ類における葉緑体DNAおよび倍数性の変異		
PF-18				三嶋 賢太郎	大規模ジェノタイプングデータを利用したカラマツの血縁管理		
PF-19				河合 慶恵	スギ精英樹の交配家系を用いた成長フェノロジーにおける遺伝率の推定		
PF-20				三浦 真弘	優良個体の選抜のためのテリハボクの成長及び着花・果実特性の調査		
PF-21				花岡 創	種多様性の高い林分における個体レベルのleaf area densityの推定		
PF-22				高島 有哉	マツノザイセンチュウ接種苗の可視・近赤外線における反射スペクトル解析		
PF-23	3/22			丹羽 花恵	マツ材線虫病被害林分から選抜したアカマツの抵抗性および諸形質の変異		
PF-24				那須 仁弥	個体別樹高成長経過からみ東北育種基本区カラマツ第2世代精英樹の比較		
PF-25	3/22			矢野 慶介	多雪地域に植栽したスギ精英樹系統と雪害抵抗性品種間での根元曲がりの比較		
PF-26 #	3/22			小林 翔	雄性不稔遺伝子を二重ホモ接合でもつ無花粉スギ(aabb)の花粉崩壊過程		
PF-27				山田 浩雄	クスギ精英樹実生採種園における第4世代選抜までの改良効果の推移		
PF-28	3/22			田口 裕人	愛媛県の開放型ミニチュア採種園における少花粉スギ種子の園外花粉率は？		
PF-29	3/22			加藤 一隆	エゾマツ交配園から採取した種子-種子重と充実率に及ぼす要因について-		
PF-30	3/22			生方 正俊	クリーンラーチ採種園の成長と着果量との関係		
PF-31				松永 孝治	熊本県におけるスギ雄花枯れの袋掛けによる防除事例		
PF-32	3/22			西原 寿明	スギミニチュア採種園で使用するカメシ防護ネットの作成とその効果と課題		
PF-33	3/22			向井 伸生	センダンの難発根性はホルモンの影響か？メチル化の影響か？		
PF-34	3/22			北野 皓大	IoT製品による挿し木の飽差管理システムの構築		
PF-35	3/22			庄司 優太	スギ挿し木苗における付傷処理による発根誘導効果		
PF-36				井城 泰一	肥料を混入させた培地を用いたスギさし木試験		
PF-37				小長谷 賢一	ヒノキにおけるゲノム編集技術の確立		
生理		PG-1 #		石原 奏	潜伏芽と伐採時期がクリの萌芽に与える影響		
		PG-2 #		Faryzan Qistan	Exploring Leaf-Xylem Connection by Azimuthal Radial Sap Flow Measurement and Branch Manipulation in Fagus crenata		
		PG-3		平川 雅文	コナラとシラカシの苗の木部通水の季節変化のMRIによる可視化		
		PG-4		東 若菜	九州産スギ2品種の日常的な幹の貯留水利用		
		PG-5		橋本 正明	ヒメシャラとブナにおける幹CO ₂ 放出の日変化		
		PG-6 #		宮澤 杏摘	様々な樹木における樹皮コンダクタンスと光合成機能の関係		
		PG-7		辻 祥子	Response of isoprene emission and the xanthophyll cycle to changes in light intensity		
		PG-8		渡辺 陽子	insect defoliationが広葉樹の木質形成へ与える影響		
		PG-9 #		西脇 那月	乾燥ストレスの履歴がヒノキの花成応答に及ぼす影響		
		PG-10		西口 満	CRISPR/Cas9法によるスギMSI遺伝子の変異誘発と雄性不稔化		
		PG-11 #	3/21	酒井 省吾	ブナ科常緑樹における萌芽と潜伏芽の関係		
		PG-12 #	3/21	早川 朋花	ダケカンパ産地試験林を用いた水利用特性の種内変異		
		PG-13	3/21	木佐貫 博光	大台ヶ原正木峠での森林衰退後に防鹿柵内で繁茂したササの樹液流速の推定		
		PG-14	3/21	高橋 玄	イヌマキにおけるしおれ点と電解質漏出率の関係		
		PG-15 #	3/21	黄 文倩	マツ材線虫病感染木における壁孔沈着物とエンボリズム分布の関係性		
		PG-16 #	3/21	佐々木 陽依	葉脈と葉肉の支持機能の分担が可能にした薄い葉の進化		
		PG-17 #	3/21	中田 拓朗	最も速く正確な光合成能力推定手法は何か？		

ポスター一覧

: 学生ポスター賞の対象

部門	現地場 示会場	ポスター 番号	現地 掲示日	講演者氏名	発表題目
生理	学術交 流会館 第一会 議室	PG-18 #	3/21	ラハユ レサシリ	Photosynthetic response of the <i>Larix gmelinii</i> var. <i>japonica</i> affected by exogenous glutathione foliar application.
		PG-19 #	3/21	前田 唯真	産地の異なるブナの北海道における成長と光合成特性
		PG-20 #	3/22	坂本 侑香	冷温帯落葉広葉樹の秋季における葉の窒素再吸収と樹種特性
		PG-21 #	3/22	森田 瑞穂	複数樹種における節部輸送速度と節部構造の比較
		PG-22 #	3/22	齋藤 楓華	ウリハダカエデの樹液量および糖度と繁殖状況との関係—3年間の記録—
		PG-23 #	3/22	内山 クリスマス	Effects of stem heating on cambial growth of <i>Cryptomeria japonica</i> in a 50-year-old plantation in southwestern Japan
		PG-24 #	3/22	増本 泰河	低温下に生きる樹木の標高差に対する細根吸水機能と炭素利用の変化
		PG-25 #	3/22	伊原 徳子	スギ産地試験地における冬季と夏季の比較トランスクリプトーム解析
		PG-26 #	3/22	則定 真利子	熱帯造林樹木3種の湛水応答
		PG-27 #	3/22	川勝 菜乃子	根圏低酸素環境での窒素欠乏が熱帯樹木の窒素吸収と成長に及ぼす影響
		PG-28 #	3/22	蛭間 英恵	環境ストレスが <i>Melaleuca cajuputi</i> の根のGABA含量に与える影響
PG-29 #	3/22	川江 萌々香	熱帯フトモモ科樹木の根の呼吸の適応による根圏低酸素下での高温耐性		
植物生態	学術交 流会館 ロビー	PH-1 #	3/21	WANG XUANWEN	Using Sentinel-2 to track seasonal changes in leaf area index in a deciduous forest
		PH-2 #	3/21	水野 優輝	気候変動観測衛星GCOM-Cを用いた日本の植物フェノロジーモニタリング
		PH-3 #	3/21	宮沢 良行	ブナが光合成するには八甲田はやや暑い
		PH-4 #	3/21	田邊 智子	幹枝生産に使う炭素はいつの光合成で得たものか：モミ苗の例
		PH-5 #	3/21	倉田 遼大	モンゴル北部に生育するシラカンバにおける炭素安定同位体比の年輪内変動
		PH-6 #	3/21	小林 敬介	カラマツの年輪における炭素安定同位体比の年次変動
		PH-7 #	3/21	酒井 恒介	早生桐のバイオマス成長に伴う炭素固定量と最適土壌条件の検討
		PH-8 #	3/21	李 歳喜	Carbon allocation responses of <i>Quercus variabilis</i> seedlings to extreme summer climate manipulation
		PH-9 #	3/21	梶野 浩史	日本国内の天然老齢林の地上部バイオマスの増減と気候条件、樹種組成の関係
		PH-10 #	3/21	長沢 誠	クマハギがスギ幹からのメタン放出に与える影響
		PH-11 #	3/21	吉村 知也	スギ挿し木における植栽後10年経過時の根系構造
		PH-12 #	3/21	室谷 楓香	ダケカンバ産地試験地における萌芽特性と種子採取地の林分構造
		PH-13 #	3/21	渡邊 和人	標高勾配に沿った環境変化に対するオオカメノキの葉・花形質変異
		PH-14 #	3/21	向井 智朗	日本と台湾に遺存的に分布する無道管広葉樹種ヤマグルマの葉形の地理的変異
		PH-15 #	3/22	細川 知暉	京都府久美浜砂丘において発生した林野火災跡地の植生回復状況の把握
		PH-16 #	3/22	前土井 秀典	ナラ枯れ被害が下層木の生育環境に及ぼす影響
		PH-17 #	3/22	笹川 大河	北海道におけるササ一斉開花枯死の実態把握——地上と宇宙の視点から——
		PH-18 #	3/22	松本 涼平	二次林皆伐跡地における実生・萌芽更新動態に環境要因が与える影響
		PH-19 #	3/22	永田 紘夢	キイチゴ類が繁茂した大規模雪崩跡地における後生実生のサイズ構造の変化
		PH-20 #	3/22	奥山 颯大	植栽図との比較からみる人工島緑地における個体群構造の変化
		PH-21 #	3/22	籠谷 泰行	東近江市の開花および未開花ハチク林における稈の発生・生育状況
		PH-22 #	3/22	玉城 聡	浅間山東部のカラマツ天然林における15年間の林部構造の推移
		PH-23 #	3/22	岡田 柚佳	佐渡島のスギ天然林の動態に及ぼす攪乱イベントの検出
		PH-24 #	3/22	策 勸格尔	暖温帯二次林と冷温帯老齢林における成木と実生群集の機能形質変化
		PH-25 #	3/22	内藤 英理香	シカ柵内の樹木実生群集の推移に地上部と地下部の環境要因が与える影響
		PH-26 #	3/22	高橋 幸歩	中間温帯林における植食動物の排除実験を用いた実生更新の阻害要因の評価
		PH-27 #	3/22	片岡 洋哉	マイマイガによる葉の食害はミスナラ林床の燃えやすさに影響を与えるのか？
		PH-28 #	3/22	永嶋 春輝	ユーカリ属8樹種の葉におけるアレロパシー活性
		PH-29 #		高橋 優希	京都市近郊二次林におけるアラカシの種子生産に対する種子食昆虫の影響
		PH-30 #		長池 卓男	落葉広葉樹二次林における階層別植物種組成の経時変化
		PH-31 #		大橋 伸太	アラスカ永久凍土域のクロトウヒにおける肥大成長の長期変動の特徴と要因
		PH-32 #		中村 純大	地震由来の崩壊斜面における初期の植物群落の成立に影響する環境要因の把握
		PH-33 #		大平 充	表層崩壊後の初期植生回復：植物種の定着と土壌条件、侵食強度の空間分布
		PH-34 #		山中 柚季	京都府久美浜砂丘におけるハイネズ群落の立地条件の解明
立地	学術交 流会館 ロビー	PI-1	3/21	阿部 真	目視観測に基づくスギの雄花量と林分環境
		PI-2	3/21	梅村 光俊	ササの地上部・地下部器官から抽出した植物ケイ酸体の粒径分布の特徴
		PI-3	3/21	小野 賢二	マングループ細根の仮比重・真比重 - 細根生産能を体積として把握する -
		PI-4 #	3/21	加藤 雅悠	周辺環境や樹種の違いが森林への窒素沈着量に与える影響の評価
		PI-5	3/21	川西 あゆみ	施肥が枯死木を介して土壌炭素蓄積に与える影響の解析
		PI-6 #	3/21	小林 凌大	樹木根や菌根菌が土壌中の木質有機物の分解速度に与える影響
		PI-7 #	3/21	佐藤 大地	25年間のスギ林土壌の酸緩衝の変化～伝統林業地秋田と各地スギ林の比較～
		PI-8 #	3/21	塩出 晏弓	大気汚染の影響を受けた森林土壌におけるイオウと土壌鉱物の関係
		PI-9 #	3/21	曹 越	森林小流域における溪流沿い伐採による20年間の溪流水質変動
		PI-10	3/21	邱 瀟璋	はげ山跡地における95年生ヒノキ人工林の成長変化
		PI-11	3/22	釣田 竜也	森林土壌の飽水時から風乾状態までの保水性曲線の測定
		PI-12 #	3/22	張 志元	Belowground carbon dynamics along a fire chronosequence in <i>Pinus densiflora</i> forests in Korea
		PI-13 #	3/22	長井 孝祐	里山のスギ林、広葉樹林、モウソウチク林での土壌呼吸量とその成分の違い
		PI-14	3/22	長坂 有	トドマツ人工林の保持林業試験地における伐採前後12年間の窒素流出量変化
		PI-15 #	3/22	中島 大雅	効率性を重視した多点調査と機械学習を用いた森林土壌炭素マップの構築
		PI-16 #	3/22	二村 杏太郎	葉と細根のリター混合が分解過程で溶脱する水溶性成分の動態に与える影響
		PI-17 #	3/22	任 睿	兵庫県南東部における社叢林土壌は優占種によりどのような影響を受けるのか
		PI-18 #	3/22	忒村 佳祐	流域内湧水湿地の消長とそれに伴う樹林化プロセスの解明
		PI-19	3/22	徳田 祐介	北関東におけるユーカリの菌根菌感染率への影響要因
		PI-20 #	3/22	持留 匠	樹木幹メタン放出と樹形の関わり
		PI-21 #	3/22	李 文昊	Relationship between eucalypt growth and soil physico-chemical properties in northern Kanto
		PI-22		大園 享司	Effect of clearcutting on the diversity of needle litter microfungi
		PI-23		中山 理智	優占樹種の異なる森林における深度方向での土壌細胞外酵素活性の違い
		PI-24		阿部 有希子	温度と水分環境が泥炭土壌の微生物呼吸に与える影響
		PI-25		山下 尚之	決定木と深層学習を用いた森林小集水域からの硫黄流出予測
		PI-26		入江 晃己	航空レーザおよび森林資源情報を用いた地位指数の検討
		PI-27 #		相澤 つかさ	腐植添加による無機質土壌の団粒形成過程
		PI-28		今矢 明宏	土壌中交換性塩基類の機械学習による広域推定

ポスター一覧

: 学生ポスター賞の対象

部門	現地掲示会場	ポスター番号	現地掲示日	講演者氏名	発表題目
立地		PI-29		山田 毅	林地への岩石粉散布による透水性への影響はあるのか？北海道鹿部町の事例
		PI-30		小林 真	マイクロプラスチックが土壌窒素循環に及ぼす影響は温暖化により変化するか
防炎・水文	学術交流館ロビー	PI-31 #		諏訪 竜之介	高山帯樹木の細根による栄養塩吸収と渗出物：外生、エリコイド菌根種の比較
		PJ-1 #	3/21	佐藤 祐太郎	美々川における河川水位のリモート観測の予備的検討
		PJ-2 #	3/21	Mohd Ghaus Ibtisam	Forest thinning impacts on streamflow recession characteristics in a Japanese conifer headwater catchment
		PJ-3		小杉 賢一朗	降雨流出および斜面崩壊に与える森林植生の影響
		PJ-4 #	3/21	滝口 慶人	狩倉沢流域における降雨流出特性把握のための異なる地質の流域との比較
		PJ-5 #	3/21	本多 真美	地質の異なる3流域におけるタンクモデルによる貯留・流出特性の比較
		PJ-6 #		長張 湧	山地流域の実測データに基づいた流出成分の分離
		PJ-7 #	3/21	鯉江 知樹	複数の堆積岩山地源流域における流出経路の評価：水質分析によるアプローチ
		PJ-8	3/21	瀧澤 英紀	渓流水の酸素安定同位体比を用いた多雪森林域における渓流水の流出特性
		PJ-9		細田 育広	渓流水細菌叢組成変動に基づく竜ノ口山南谷における出水過程の検討
		PJ-10 #	3/21	張 逸哲	The Impact of Forest Types and Topographic Variations on Snow Accumulation: Insights from UAV-LiDAR
		PJ-11	3/21	荒田 洋平	北海道空知川上流の森林流域における融雪出水特性とその要因
		PJ-12	3/21	羽山 寛樹	遮断蒸発と蒸散が流況に及ぼす影響：多雪地域におけるシミュレーション検討
		PJ-13 #	3/21	山岡 祐登	降雨流出プロセスを考慮した山地流域の渓流水温変動特性の評価
		PJ-14 #	3/21	稲岡 諄	電気探査を用いた地表面流域を越える地下水挙動可視化の試み
		PJ-15 #	3/21	岩尾 健司	森林斜面における基岩面上の水みち分布の測定
		PJ-16 #	3/21	鈴木 美香	埼玉県所沢市における異なる林分の水源涵養機能の評価
		PJ-17		澤野 真治	統合型森林管理システムに供するための広域的な水資源評価に関する試み
		PJ-18	3/21	松本 一穂	間伐前後における森林土壌の透水・保水性の変化
		PJ-19	3/21	吉藤 奈津子	林床リター含水比モデルに基づく森林火災発生危険日の推定
		PJ-20	3/21	宮下 彩奈	実験的な間伐による残存木の風荷重変化の計測
		PJ-21		大谷 達也	樹木の配置と根系の形状が樹木個体の引き倒し抗力におよぼす影響
		PJ-22		野口 宏典	盛土に植栽されたクロマツの直根・水平根の量と根返り耐性の関係
		PJ-23	3/21	小堀 光輝	皆伐により集積された未木枝葉の危険性に関する調査
		PJ-24		岡田 康彦	スギ立木の流木捕捉機能に対する間伐の効果を検証する水路実験
		PJ-25 #		長谷川 一起	森林内無流水渓流における流木の運動機構
		PJ-26	3/22	酒井 佑一	人工林施業下における表層崩壊の発生要因の検討
		PJ-27 #	3/22	赤羽 澄香	航空機レーザー計測データを活用した崩壊発生斜面の林分特性の評価
		PJ-28 #	3/22	中村 涼	衛星データを用いた九州南部の植生変化と斜面災害リスクについての検討
		PJ-29	3/22	谷 美規	2024年能登半島地震で発生した土砂災害に植生が与えた影響
		PJ-30 #	3/22	牛尾 樹生	地形特性が土砂動態に与える影響の検討
		PJ-31		岩田 幸泰	森林が土砂生産へ及ぼす影響とその定量的な評価について
		PJ-32 #	3/22	及川 夕摩	焼岳上々堀沢における土砂移動が植生に与える影響
		PJ-33 #	3/22	大和 利成	ヒノキ人工林の高齢化が表面侵食量に及ぼす影響
		PJ-34		延廣 竜彦	岩手県のシラカンパ林における皆伐前後の土砂移動レートの変化
		PJ-35	3/22	小柳 賢太	Plot-scale hydrological and sediment disconnectivity associated with windthrown logs in the Eastern Italian Alps
		PJ-36 #	3/22	前田 悠月	はげ山跡地における植生の回復と斜面土層の生成過程
		PJ-37		岡本 隆	ベトナム北部山岳地の土地利用に基づく治山計画の検討
		PJ-38		今田 省吾	山地溪畔林における土壌間隙水と枝自由水中のトリチウム濃度
		PJ-39 #	3/22	網屋 花菜	全国渓流水酸素・水素安定同位体比の分布の長期変化と気候変動に対する応答
		PJ-40 #	3/22	公文 麟太郎	攪乱発生流域における30年間の硝酸イオン濃度-流量関係の変化
		PJ-41	3/22	井手 淳一郎	崩壊地を含む北方冷温帯林における河川の溶存有機物の構成分子種について
		PJ-42		笠原 玉青	森林河川におけるモウソウチクのリター破碎とリターからの溶出
		PJ-43		深山 貴文	葉含水率とクズのイソプレン放出速度の関係
		PJ-44 #		岡 直輝	温帯ヒノキ林の異なる斜面方位における土壌呼吸特性の評価
		PJ-45	3/22	小坂 泉	冷温帯と暖温帯に植栽されたアノのガス交換の比較
		PJ-46	3/22	小谷 亜由美	常緑落葉混交林内の湧水湿地と大気間のCO ₂ 収支
		PJ-47	3/22	溝口 康子	風速鉛直成分の標準偏差および摩擦速度を用いたフラックスデータの選別
		PJ-48		根津 涼	森林水循環簡易評価に向けた樹冠蒸発散のシステムダイナミクスモデル構築
		PJ-49		久保田 多余子	年輪から復元した蒸散量と長期水文気象データから計算した蒸散量との比較
		PJ-50 #	3/22	玉 昕璋	Calibration of Sap Flow Measurement Using Azimuthal Data in Japanese Cypress
		PJ-51	3/22	佐藤 貴紀	カラマツを対象とした熱消散法と吸引実験による樹液流速の比較
		PJ-52	3/22	飯田 真一	多面的計測によるスギ林分の遮断動態の評価
PJ-53 #	3/22	河野 智紀	定点連続撮影による降雪イベントごとの遮断率の推定		
利用	学術交流館第一会議室	PK-1		宗岡 寛子	作業道からの排水による斜面のマトリックポテンシャルの変化
		PK-2		和多田 友宏	森林作業道の損壊発生リスクを評価する地図の作成
		PK-3		鈴木 秀典	集材路の作設が土砂流出に与える影響の評価
		PK-4	3/21	山口 智	作業道での簡易排水を用途とする粗粒の非破壊検査による分析
		PK-5 #		長谷川 兼都	ロングリーチハーベスタを用いた伐倒造材作業の生産性
		PK-6	3/21	大地 純平	下刈り作業の機械化に向けた研究
		PK-7	3/21	関子 光太郎	短伐期ヤナギ類におけるケーンハーベスター収穫作業の検討
		PK-8	3/21	有水 賢吾	林業機械自律走行における作業道逸脱防止のための経路計画に関する一検討
		PK-9		岩岡 正博	超音波測距センサの移動体からの測距性能
		PK-10	3/22	佐々木 達也	オーガ付き電動クローラ型1輪車用の植栽位置誘導システムの開発
		PK-11		山口 浩和	CLASを用いた電動クローラ型1輪車の車両誘導手法の検討
		PK-12		大塚 大	3次元点群によるヒノキ天然更新林分における立木位置のマッピング
		PK-13		海洋 江里	ドローン空撮画像を用いた造林初期のモニタリング手法の検討
		PK-14 #	3/22	高木 幹太	モンゴルにおける欧州型CTLを考慮した枯死木利用可能量推計
		PK-15		杉村 翼	スギ原木の直径成長パターンと強度等級区分の関係
		PK-16	3/22	鶴飼 一博	林業事業体従業員の潜在的ストレスの程度
		PK-17	3/22	松村 哲也	急傾斜林地における環境色彩分布と林業作業者の視認性
		PK-18		猪俣 雄太	林業の労働災害発生率は従業者規模によって異なるか？

ポスター一覧

: 学生ポスター賞の対象

部門	現地展示会場	ポスター番号	現地掲示日	講演者氏名	発表題目
利用		PK-19		中田 知沙	森林作業における傷病部位からみた労働災害
動物・昆虫	学術交流会館第一会議室	PL-1 #		安田 和真	森林の消失と断片化はキツツキが果たす生態系機能に影響を与えるか？
		PL-2 #		林 亮太	ヒノキのルートマットがA層の土壌動物群集に与える影響
		PL-3 #		中山 直紀	エタノール注入スギ丸太による養菌性キクイムシの誘引：穿孔孔の分布解析
		PL-4 #		フィアクボルス ガブリエル	Factors influencing the number of mycangium pits in <i>Platypus quercivorus</i> females
		PL-5 #	3/21	吉田 理紗	クマイザサ衰退地点から推定したニホンジカの冬季生息地選択
		PL-6 #	3/21	熊木 順生	ニホンジカによる森林の環境変化が土壌動物群集に与える影響
		PL-7 #	3/21	田中 隆史	ニホンジカが樹木の実生に与える影響とその要因
		PL-8 #	3/21	玉木 麻香	人間活動はシカに非消費型捕食者効果を及ぼすのか—音声実験による評価—
		PL-9 #	3/21	立石 幸輝	松枯れの進行が希少鳥類種子ゴモズの繁殖地選好性に及ぼす影響
		PL-10 #	3/21	岡本 稜平	東京農産大学奥多摩演習林におけるナラ枯れ被害木分布の地理的特徴
		PL-11 #	3/21	徐 碩飛	カシノナガキクイムシの忌避剤としてのヒノキチップの有効範囲と有効期間
		PL-12	3/21	上田 明良	クリハラリスの生息する小島と生息しない対岸の半島の間の昆虫相の比較
		PL-13	3/21	法眼 利幸	和歌山県においてヒノキ皮付き丸太に穿孔する昆虫類
		PL-14	3/21	綾部 慈子	森林害虫のハバチ類はゴルバキアに感染しているか？
		PL-15	3/21	内田 葉子	カラマツ類に対するマイマイガの摂食選好性—室内実験と造林地での被害例—
		PL-16	3/21	松木 佐和子	文献およびワード検索から見た全国のクスサン発生履歴
		PL-17	3/22	長谷川 喬平	カシノナガキクイムシが越冬可能な標高の調査-山梨県の事例-
		PL-18	3/22	和田 尚之	北海道でのカシノナガキクイムシ越冬可能性-積雪はリスクを高めるか？-
		PL-19	3/22	衣浦 晴生	カシノナガキクイムシ成虫の秋脱出
		PL-20	3/22	松本 剛史	市民参加型で実施できるナラ枯れ被害材の処理にかかるコスト試算
		PL-21	3/22	植崎 康二	福岡県におけるナラ枯れ（ブナ科樹木萎凋病）の発生状況について
		PL-22	3/22	小林 卓也	北海道南部で採集されたカシノナガキクイムシの集団遺伝構造
		PL-23	3/22	上森 教慈	ヒメスギカミキリが致死する熱処理パラメーターの決定
		PL-24	3/22	小西 堯生	ツヤハダゴマダラカミキリは産卵意思決定において社会的情報を利用する
		PL-25	3/22	武原 葉々花	クロマツ樹上におけるマツヘリカメシ幼虫の共生細菌獲得
		PL-26	3/22	渡辺 敦史	マツノサイセンチュウほどの程度の気温まで耐性を持つのか？
		PL-27	3/22	林 耕太	亜高山帯針葉樹林でのニホンジカの剥皮の進行
		PL-28	3/22	中森 さつき	航空レーザ測量データを用いた下層植生衰退地点の検出
		PL-29		井内 正直	揺れ検知IoTを用いたイノシシ・シカ等による集落防護網への接触状況調査
		PL-30		高橋 絵里奈	島根大学三瓶演習林におけるトレイルカメラの画像による野生動物生息調査
		PL-31		村川 直美子	UAVによる山形県におけるマツ材線虫病被害地の観測
		PL-32		福原 一成	カシノナガキクイムシの発生予測とルイスホソカラムシの天敵としての可能性
		PL-33		山崎 理正	体重と初速がカシノナガキクイムシの飛翔距離に及ぼすカスケード効果
微生物	学術交流会館第一会議室	PM-1 #	3/21	海老沼 駿人	シカ採食圧下の森林の下層植生回復に対する土壌細菌群集の影響
		PM-2 #	3/21	猪股 紗如	シカ採食圧下の森林における土壌微生物群集の特徴
		PM-3	3/21	上村 真由子	土壌表面や土壌中の木質リターの分解過程における微生物要因の影響の評価
		PM-4 #	3/21	高 亦凡	外生菌根樹木が枯れたら—土壌菌類群集の変化とそれに伴う有機物分解の促進
		PM-5 #	3/21	Aye Myat Myat Paing	Investigating soil and root fungal communities associated with <i>Betula ermanii</i> across diverse provenance trials
		PM-6 #	3/21	末吉 功季	ヤクスギ巨樹上の林冠土壌中の微生物群集の解明
		PM-7 #	3/21	米津 岳明	リター分解プロセスにおける樹種混交が微生物相へ与える影響
		PM-8 #	3/21	伊藤 愛	都内の街路と緑地に生育するケヤキに共生するAM菌群集の比較
		PM-9 #	3/21	田中 洋貴	広葉樹二次林における哺乳類による地上外生菌根根生子実体の摂食
		PM-10 #	3/21	廣江 裕輝	外生菌根根生子実体の胞子はナメクジの摂食によって散布されるか
		PM-11 #	3/22	清水 裕文	特異的プライマーによるトガサワラショウロ検出の試み：釣菌法との比較から
		PM-12	3/22	杉山 賢子	カラマツ植林地における外生菌根菌群集の時空間動態
		PM-13 #	3/22	瀬川 あすか	海岸の盛土に植栽されたクロマツの外生菌根の群集構造と酵素活性の解明
		PM-14 #	3/22	村上 陸	海岸クロマツ林に分布する外生菌根菌の群集構造に津波が及ぼす影響
		PM-15 #	3/22	山本 暁	高山帯風衝地の植生遷移と地衣類を構成する菌類および藻類の群集構造の変化
		PM-16 #	3/22	佐藤 喜子	<i>In vitro</i> における実生・外生菌根菌・根圏バクテリアの相互作用
		PM-17 #		高橋 佳史	ヌメリイグチ属培養菌糸の伸長成長を促進する寒天及び添加物濃度の検討
		PM-18 #	3/22	船 航太郎	菌根菌は混合栄養植物イチャクソウの種子発芽に重要か
		PM-19		宮本 裕美子	北半球広域分布と系統解析によるハナイグチの再分類
		PM-20		山口 岳広	北海道のサワラ・イチイ類に幹辺材腐朽・溝腐れを起こす <i>Fomitiporia</i> 属菌
		PM-21	3/22	岩切 鮎佳	冷温帯林の落葉漂白部に種特異的に発生する <i>Hypoderma</i> 属菌
		PM-22 #	3/22	戴 健平	傷をつけた生立木の辺材部における腐朽初期の菌類相変化
		PM-23 #		野口 楓華	クリタマバチの虫えいとその周辺枝葉の菌相：微小分布と幼虫成長に伴う変遷
		PM-24		石原 誠	宮崎県のヤナギ植栽試験地で発生したいくつかの病害とその対策について
		PM-25		坂上 大翼	ユーカリ類の葉から分離した菌類の葉片に対する壊死斑形成能力
		PM-26		小坂 肇	多摩森林科学園におけるヒラタケ白こぶ病の発生消長
		PM-27	3/22	才木 真太郎	うどん粉病が葉表面の濡れ性に与える影響
		PM-28		白川 誠	ポプラのカルスから発根した不定根における境界細胞の観察
特用林産	学術交流会館第一会議室	PN-1	3/21	中軽米 聖花	セルトレイを用いたウレシ苗木の生産工程の構築
		PN-2 #	3/21	二社 悠太	漆掻きによる漆液の樹脂道内への補充総量の推定
		PN-3	3/21	松原 恵理	木材を原料としたアルコール飲料の官能評価-樹種間の比較-
T1	学術交流会館ロビー	PT1-1 #	3/21	中辻 宏平	亜熱帯二次林における、森林の回復がアリ類の垂直群集に与える影響
		PT1-2 #		柴山 潤太	林相の違いや間伐が森林性鳥類群集に及ぼす影響：30年前と最近3年の比較
		PT1-3 #		安部 琴子	森林の階層構造と鳥類相の関係：とくにカラマツ・広葉樹混交林分に着目して
		PT1-4		小長 啓介	保持木の菌根タイプの違いが更新稚樹の外生菌根菌の多様性に及ぼす影響
		PT1-5	3/21	高橋 理	針葉樹人工林における間伐後の開空率と下層植生の経時変化
		PT1-6	3/21	林 珠乃	マラウイ湖国立公園周辺の地域住民による森林資源の利用の現状と将来展望
		PT1-7	3/21	小西 拓海	TNFDやAWS等のイニシアチブにおける森林保全活動の意義
		PT1-8	3/21	西澤 啓太	木材生産と生物多様性-生態系機能の保全を両立した森林施業方法の検討
T2		PT2-1 #	3/21	齋藤 万桜	長野県立高遠高校と東京農産大学第三高等学校での緑地散策前後の気分変化

ポスター一覧

: 学生ポスター賞の対象

部門	現地掲 示会場	ポスター 番号	現地 掲示日	講演者氏名	発表題目
T4	学術交 流会館 ロビー	PT4-1 #	3/21	趙 星一	スキヤナ法で捉えた低次根の分枝構造の変化
		PT4-2 #	3/21	山形 拓人	自動化された根圏画像処理による細根フェノロジーの解明
		PT4-3 #	3/21	柳瀬 亮太	深さ1mまでのスギ細根次数別形態特性-根系掘取法と断面スキヤナ法の比較
		PT4-4 #	3/21	吉田 陽向	深層学習を用いた自動抽出による1年間のヒノキ細根動態評価
		PT4-5 #	3/21	坂本 小雪	中央アルプス亜高山帯常緑針葉樹林における標高勾配に沿った細根動態
		PT4-6	3/21	福澤 加里部	ササ除去から年数が経過した森林土壌におけるササ及び樹木の細根バイオマス
		PT4-7 #	3/21	田中 優斗	林内における樹木根系形態計測に対するSfM/MVS法の有用性についての検討
		PT4-8 #	3/21	朴 敏玟	Effect of biochar and organic fertilizer on root development of <i>Zelkova serrata</i> seedlings in compacted soils
		PT5-1	3/21	五十嵐 康記	大規模山火災が河川中を介した放射性物質の再拡散に与える影響
		PT5-2	3/21	坂下 涉	安定同位体セシウムによる森林内の放射性セシウム循環の準平衡状態の評価
PT5-3	3/21	篠宮 佳樹	事故後植栽木と事故汚染木のスギの面移行係数の比較		
PT5-4	3/21	伊藤 江利子	富山県の林齢が異なるコナラ林における面移行係数の特徴		
PT5-5		市川 貴大	落ち葉かきが落葉分解中の放射性セシウム濃度および量に及ぼす影響		
PT5-6	3/21	高橋 純子	スギ林土壌における ¹³⁷ Csの下方移行に対する間伐の影響		
PT5-7	3/21	山村 充	森林整備後に植栽したスギ・コナラの部位別放射性セシウム濃度分布		
PT5-8		齋藤 直彦	萌芽枝の放射性セシウム移行への樹種及び地形要因の影響		
PT5-9	3/21	成松 真樹	岩手県のナラ林における土壌の交換性カリウムと萌芽の放射性セシウムの関係		
PT5-10	3/21	坂田 匡司	異なる斜面位置のコナラ当年枝の放射性セシウム濃度の変動要因		

各種論文賞受ポスター

部門	現地掲 示会場	ポスター 番号	現地 掲示日	著者氏名	発表題目
JFR 論文賞	学術交 流会館 ロビー	PP-01	3/21-22	Katsuhiko Osumi and Takashi Masaki	Longevity of tall tree species in temperate forests of the northern Japanese Archipelago
日林誌 論文賞		PP-02	3/21-22	宮本尚子・武津英太郎・井城泰一・岩泉正和・松永孝治・山野邊太郎	畳み込みニューラルネットワーク MobileNetV2 を用いたクロマツ雌花開花ステージの判定ツールの開発
		PP-03	3/21-22	佐藤周平・竹本太郎	集落人口を対象にしたコーホート分析の可能性-新潟県上越市不動態における集落合併の要因-

学会企画ポスター

企画名	ポスター 番号	講演者氏名	発表題目
【学会企画2】 韓国留学生会および アジアの森林学会 との国際交流会	GP-01	Kazi Kamrul Islam	Agroforestry: a sustainable land-use practice for enhancing productivity and carbon sequestration in Bangladesh
	GP-02	Rasis Putra Ritonga	Evaluating CO2 Emissions Across Different Land Covers in Rewetted Peatlands
	GP-03	Chiara Botalaro	Exploring Spectral and Thermal Response of Forest Habitats through Satellite Imagery
	GP-04	Noor Janatun Naim Jemali	Forest Ecosystem Services Provided by Central Forest Spine in Kelantan State
	GP-05	Seca Gandaseca	Forest Harvesting System and Sustainability Management in Matang Mangrove Forest, Perak, Malaysia
	GP-06	Son Jiyoung	A Study on Current Status and Issues of Forest Roads for Sustainable Forest Management in Korea.
	GP-07	Mochamad Candra Wirawan Arief	Potential Carbon from the Mangrove Forest Rehabilitation in West Java, Indonesia.
	GP-08	Efi Yuliaty Yovi	Occupational Safety, Health, and Financial Feasibility of Motorcycle Taxis for Log Transportation in Remote Areas: A Comprehensive Review
	GP-09	Sri Een Hartatik	Saving the Endangered Nutmeg: Preliminary Study of Myristica teijsmannii Community in Sempu Island Indonesia
	GP-10	Pakhriazad Hassan Zaki	SUSTAINABLE LAW ENFORCEMENT STRATEGIES FOR COMBATING FOREST CRIMES IN MALAYSIA

企画名	現地掲 示会場	ポスター 番号	現地 掲示日	学校名	発表題目
【学会企画4】 第12回 高校生 ポスター 発表	学術交 流会館 ロビー	KP-1	3/22	北海道士幌高等学校	地域環境を繋ぐ・支える・育む 防風林造成
		KP-2	3/22	北海道帯広農業高校	帯広農業高校学校林の再造林の取り組みPart2
		KP-3	3/22	北海道標津高等学校	サトウカエデ樹液の流出と温度の関係および濃縮後のメープルシロップの調査
		KP-4	3/22	北海道富川高等学校	日高山脈襟裳十勝国立公園に関する研究
		KP-5	3/22	宮城県仙台第三高等学校	仙台三高「時習の森」林冠ギャップが森林内に与える影響
		KP-6	3/22	栃木県立矢板東高等学校	木質バイオマス発電を活かした未来とまちづくり
		KP-7	3/22	群馬県立尾瀬高等学校	尾瀬国立公園におけるニホンヤマメ調査2024
		KP-8	3/22	群馬県立尾瀬高等学校	尾瀬高校周辺のチョウ類調査
		KP-9	3/22	東京都立国分寺高等学校	音声からカラスバトの情報を探る
		KP-10	3/22	東京都立国分寺高等学校	GPS発信機を使ったカラスバトの生態調査
		KP-11	3/22	東京都立科学技術高等学校	香りによる植物のコミュニケーション
		KP-12	3/22	中央大学附属高等学校	多摩丘陵におけるムササビの分布と森林環境
		KP-13	3/22	神奈川県立厚木高校	デンブンの種類が微生物発電に与える影響
		KP-14	3/22	神奈川県立吉田島高等学校	矢倉沢演習林から発信する地域の未来
		KP-15	3/22	石川県立七尾高等学校	対峙培養法におけるヒラタケとカビの成長範囲変化
		KP-16	3/22	岐阜県立加茂農林高等学校	外来樹種を活用したキノコ栽培について
		KP-17	3/22	不二聖心女子学院高等学校	不二の杜 ～みんな集まれ！！ 学校がフィールドプロジェクト～
		KP-18	3/22	不二聖心女子学院高等学校	持続可能な学び舎～みんな集まれ！！ 学校がフィールドプロジェクト～
		KP-19	3/22	京都府立北桑田高等学校	京都フォレストスタイル～森林資源の循環～
		KP-20	3/22	大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	金剛山における、手入れの優先度のヒートマップ作成～森の健康診断を用いて～
		KP-21	3/22	山口県立大津緑洋高校大津校舎	楽器を通じて国産材の認知度向上へ挑む
		KP-22	3/22	高知県立高知農業高等学校	森林3次元計測システムを利用した森林資源情報のデジタル化に向けた取組
		KP-23	3/22	長崎県立長崎東高等学校	里山高齢林における伐採後10年間の炭素蓄積量の変化
		KP-24	3/22	熊本県立矢部高等学校	ニホンミツバチに関する研究 ～地域と連携した魅力発信の取組～
		KP-25	3/22	熊本県立矢部高等学校	林業のちから×ふくしの心～林福連携ですべての人に健康と福祉を～
		KP-26	3/22	熊本県立南校高等学校	小馬床演習林における森林保水力の調査及び流域治水スタディーツアーの実践
		KP-27	3/22	熊本県立南校高等学校	人吉・球磨地域の豊かな森林資源の活用で地域活性化
		KP-28	3/22	沖縄県立球陽高等学校	沖縄地域樹種の種子オイル抽出と化粧品応用に向けた可能性の検討

学会企画

【学会企画 1】ランチオンミーティング「困りごとを共有しよう！改めて、選択的夫婦別姓制度の必要性を考える」

コーディネータ:佐藤 宣子(ダイバーシティ推進担当理事,九州大学)
村上 拓彦(同主事,新潟大学),ダイバーシティ推進委員会

開催日時: 3月21日(金)12:00-13:00 会場:N21
対面開催/ライブ配信なし/録画公開なし

国連の女性差別撤廃委員会は日本政府に2024年10月29日に、異例の4回目となる選択的夫婦別姓制度の導入を勧告しました。日本は別姓を認めない唯一の国となっており、国際的な活躍が求められる研究者が困っていることを共有し、発信することが求められています。日本森林学会は男女共同参画学協会連絡会の23期幹事を担っています。2025年秋開催予定の第23回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムでは「選択的夫婦別姓」をテーマとする予定です。森林学会大会においても「選択的夫婦別姓」の必要性について考えるきっかけを設けたいと考えました。2名の方々からの話題提供を交えて会員各位と意見交換できる場としたいと思っています。お弁当を食べながら気楽に情報交換しませんか？

★参加申込不要・参加費無料・

お弁当＆お茶(500円)のみ要予約(3月9日(日)締切)こちらから→



<内容>

12:00 開会挨拶/趣旨説明

佐藤宣子(九州大学)

－話題提供－

「学生時代に旧姓名使用で困った！」

小川 結衣(筑波大学)

「インドネシア政府からの調査許可取得で困った！」

志賀 薫(森林総合研究所)

フリーディスカッション

13:00 閉会

問い合わせ先:ダイバーシティ推進委員会(diversitypromotion@forestry.jp)

困りごとを共有しよう！

改めて、選択的夫婦別姓制度の必要性を考える

日本森林学会大会において「選択的夫婦別姓制度」の必要性について考えるきっかけを設けたいと考えました。2名の方々からの話題提供を交えて会員各位と意見交換できる場としたいと思っています。お弁当を食べながら気楽に情報交換しませんか？

日時

2025年3月21日（金）12:00～13:00

場所

北海道大学農学部 N21

スケジュール

12:00 開会挨拶/趣旨説明 佐藤 宣子（九州大学）

－話題提供－



小川氏

「学生時代に旧姓名使用で困った！」
小川 結衣（筑波大学）

「インドネシアへの調査許可取得で困った！」
志賀 薫（森林総合研究所）



志賀氏

フリーディスカッション

13:00 閉会

★参加申込不要・参加費無料

お弁当＆お茶（500円）のみ要予約（3月9日（日）締切） →→



問い合わせ先：ダイバーシティ推進委員会
(diversitypromotion@forestry.jp)

主催：



一般社団法人

日本森林学会
The Japanese Forest Society Since 1914

後援：



男女共同参画学協会連絡会

【学会企画2】 帰国留学生会員およびアジアの森林学会との国際交流会

コーディネータ: 中静透(国際交流担当理事, 森林総研) 国際交流推進委員会
大久保達弘(東北農林専門職大学), 大田真彦(長崎大学),
藤原敬大(九州大学), 板谷明美(三重大学), 櫃間岳(森林総研)

開催日時: ポスター発表 全日・ウェブ配信
国際交流会 3月21日(金)17:00-19:00 会場 N31
対面・オンライン配信/録画公開なし

日本森林学会には、多数の留学生が学生会員として所属し、発表を行なっている。しかし、会費負担等の関係から、帰国後は本学会を退会し、関係が疎遠になる場合が多い。

本企画では、再開された対面開催にオンラインを加えたハイブリッド形式のメリットを生かし、すでに本国に帰国した元留学生会員への学会参加・発表機会を提供する。目的としては、学位取得後の研究フォローアップ、学会発表実績の提供および帰国留学生会員同士や日本人会員との国際共同研究の萌芽形成を想定している。

参加者から事前に提出されたポスター発表を、学会の全日程、非同期(オンデマンド)形式で公開する。これに加え、本企画では、対面とオンラインのハイブリッド形式で国際交流会を行い、参加者同士が直接やりとりできる機会を提供し、今後の交流に向けた意見交換を予定している。アジア各国の林学会(韓国、中国)からの活動内容の紹介も含む予定である。現在日本の大学に所属している留学生会員や日本人会員にも、積極的に参加して頂きたい。

必要事項(参加者氏名・身分・所属先・メールアドレス)を、期日(3月20日(木))までに担当者(大久保達弘(Ohkubo Tatsuhiro))あて(okubotat@tpuaf.ac.jp)までお送りください。こちらからオンラインアドレス(ZOOM)をお送りいたします。

【JFS Event 2】 Online Reunion of Ex-Overseas Student Members and International Networking Forum among Forest Societies in Asia

Coordinator:

Nakashizuka Tohru (Director of International Exchange, Forestry and Forest Products Research Institute)
International Exchange Promotion Committee: Ohkubo Tatsuhiro (Tohoku Professional University of Agriculture and Forestry), Ota Mashiko (Nagasaki University), Fujiwara Takahiro (Kyushu University), Itaya Akemi (Mie University), Hitsuma Gaku (Forestry and Forest Products Research Institute)

Program

- ・Poster Presentations: All days through an asynchronous (on-demand) format
- ・Networking Meeting: March 21 (Fri) 2025, 5:00 PM – 7:00 PM (GMT+9) (the time is subject to change)

Aim of this event

There are many active international student members in The Japan Forest Society. However, due to the burden of membership fees and other factors, many of them withdraw from the Society after returning to their home countries, and the relationship with the Society often becomes estranged. The purpose of this project is to provide an opportunity for former international students who have already returned to their home countries to participate in the conference and make presentations, using online methods. The purpose of this event is to follow up their research after obtaining their degrees, to provide them with an opportunity

to present their research at academic conferences, and to form the seeds of international joint research among former international student members and with Japanese members.

The poster presentations submitted in advance by the participants will be opened to the public on site and an asynchronous (on-demand) format during the entire meeting. In addition to this, we plan to hold an exchange meeting in a hybrid format (on-site and synchronous (real-time) online) to provide an opportunity for participants to communicate directly with each other and exchange opinions for future exchanges. And also we plan to include an introduction of activities from forestry societies in Asian countries (South Korea and China). We hope that international and Japanese members who currently belong to Japanese universities will actively participate in the meeting.

If you would like to participate in the networking meeting in a synchronous (real-time) online format, please send the required information (participant's name, status, affiliation, and e-mail address) to Dr. Ohkubo Tatsuhiro (okubotat@tpuaf.ac.jp) by the deadline (March 20 (Thu), 2025). We will send you the web meeting (Zoom) address.

【学会企画3】 JFR の Data Note に投稿しよう！

コーディネータ: 溝上展也(JFR 担当理事, 九州大学)
志水克人(JFR 担当主事, 森林総研), 町田庸子(JFR 編集事務局, 学会誌刊行センター)

開催日時: 3月21日(金) 17:30~18:30 会場: N13
対面開催/ライブ配信(オンデマンド配信予定)

Journal of Forest Research (JFR)では2024年6月から新しい原稿種別として Data Note(データペーパー)を導入し、投稿を受け付けています。しかし、分野によってはデータペーパーに馴染みがなく、どのような原稿が掲載に適するかわからないといった意見もあります。本企画では JFR での Data Note の審査基準と方針を説明し、データペーパー出版のメリットや具体例について話題提供します。

科学技術基本計画でオープンサイエンスの推進が謳われ、2024年2月には「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」が策定されました。この方針により、公的資金のうち2025年度から新たに公募を行う科研費等の競争的研究費の受給者に対して、「学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤へ掲載(即時オープンアクセス)」することが義務付けられます。これまで、塩基配列やタンパク構造、さらには画像情報など、基礎生物学分野での論文公開に伴うデータ登録は広く普及してきましたが、日本の森林関連のフィールドデータについてはこれからの状況であり、Data Note の発展が期待されます。そこで本企画では、Nature 姉妹紙の「Scientific Data」の編集委員でもある久米篤氏に「オープンサイエンス時代におけるフィールド研究データの公開戦略」についての基調講演をしていただきます。

多くの分野の会員がリポジトリにデータ登録し JFR にデータペーパーを投稿するまでの疑問を解消できるように議論を深めましょう。

プログラム 司会: 志水克人(JFR 主事)

- (1) 基調講演「オープンサイエンス時代におけるフィールド研究データの公開戦略」
久米篤(Scientific Data 編集委員)
- (2) 「Data Note の編集方針と審査基準」 溝上展也(JFR 編集委員長)
- (3) 総合討論

【学会企画4】第12回高校生ポスター発表表彰式 および 高校生対象の大学ツアー

コーディネータ:太田祐子(中等教育連携推進担当理事, 日本大学)
佐橋憲生(中等教育連携推進担当主事, 日本大学)
大平 充(大会運営高校生ポスター発表担当, 北海道大学)

開催日時:3月22日(土) 表彰式 14:15~15:00 会場:学術交流会館 小会室
対面開催/オンライン配信(関係者のみ)
大学ツアー15:00~16:00(高校関係者・希望者のみ)
対面開催/配信なし

高校生ポスター賞受賞校の発表と表彰式を行います。申し込みは不要です。
表彰式終了後に希望者を対象に「高校生対象の大学ツアー」を実施します。
大学生が研究室や研究施設などを案内します。希望者はQRコードよりお申し込みください。
申し込みはこちらから→



表彰式および大学ツアーのスケジュール

14:15~15:00 表彰式(森林学会会長からの総評)

15:00~16:00 高校生対象の大学ツアー(オプション)希望者のみ

第12回 高校生ポスター発表 学校名・発表題目

発表番号	学校名	発表題目
KP-1	北海道士幌高等学校	地域環境を繋ぐ・支える・育む 防風林造成
KP-2	北海道帯広農業高校	帯広農業高校学校林の再造林の取り組み Part2
KP-3	北海道標津高等学校	サトウカエデ樹液の流出と温度の関係および濃縮後のメープルシロップの調査
KP-4	北海道富川高等学校	日高山脈襟裳十勝国立公園に関する研究
KP-5	宮城県仙台第三高等学校	仙台三高「時習の森」林冠ギャップが森林内に与える影響
KP-6	栃木県立矢板東高等学校	木質バイオマス発電を活かした未来とまちづくり
KP-7	群馬県立尾瀬高等学校	尾瀬国立公園におけるニホンヤマネ調査 2024
KP-8	群馬県立尾瀬高等学校	尾瀬高校周辺のチョウ類調査
KP-9	東京都立国分寺高等学校	音声からカラスバトの情報を探る
KP-10	東京都立国分寺高等学校	GPS 発信機を使ったカラスバトの生態調査
KP-11	東京都立科学技術高等学校	香りによる植物のコミュニケーション
KP-12	中央大学附属高等学校	多摩丘陵におけるムササビの分布と森林環境
KP-13	神奈川県立厚木高校	デンブンの種類が微生物発電に与える影響
KP-14	神奈川県立吉田島高等学校	矢倉沢演習林から発信する地域の未来
KP-15	石川県立七尾高等学校	対峙培養法におけるヒラタケとカビの成長範囲変化
KP-16	岐阜県立加茂農林高等学校	外来樹種を活用したキノコ栽培について
KP-17	不二聖心女子学院高等学校	不二の杜 ～みんな集まれ！！ 学校がフィールドプロジェクト～
KP-18	不二聖心女子学院高等学校	持続可能な学び舎～みんな集まれ！！ 学校がフィールドプロジェクト～
KP-19	京都府立北桑田高等学校	京都フォレストスタイル～森林資源の循環～
KP-20	大阪教育大学附属高等学校 天王寺校舎	金剛山における、手入れの優先度のヒートマップ作成～森の健康診断を用いて～
KP-21	山口県立大津緑洋高校大津 校舎	楽器を通じて国産材の認知度向上へ挑む
KP-22	高知県立高知農業高等学校	森林3次元計測システムを利用した森林資源情報のデジタル化に向けた取組
KP-23	長崎県立長崎東高等学校	里山高齢林における伐採後10年間の炭素蓄積量の変化
KP-24	熊本県立矢部高等学校	ニホンミツバチに関する研究 ～地域と連携した魅力発信の取組～
KP-25	熊本県立矢部高等学校	林業のちから×ふくしの心～林福連携ですべての人に健康と福祉を～
KP-26	熊本県立南稜高等学校	小馬床演習林における森林保水力の調査及び流域治水スタディー ツアーの実践
KP-27	熊本県立南稜高等学校	人吉・球磨地域の豊かな森林資源の活用で地域活性化
KP-28	沖縄県立球陽高等学校	沖縄地域樹種の種子オイル抽出と化粧品応用に向けた可能性の検討

【学会企画5】日林誌の使い方

コーディネータ:長池卓男(日林誌担当理事, 山梨県森林総合研究所)

開催日時:3月22日(土) 15:15~16:15 会場:N31

森林科学の広い分野を対象とした和文誌である日林誌。107巻を迎え、「もっと使う・使われる日林誌」のきっかけになればと、「日林誌の使い方」を企画しました。

日林誌では、日林誌に掲載された論文の根拠データ等について、J-STAGE Data で公表できます。2023年10月に公表された「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方」にあるように、根拠データの公開が求められるようになっていきます。担当編集委員より、J-STAGE Data のアップロードから公開までの流れや、公開データの現状およびその使われ方等についてお話しします。

また、会員の皆さんが講義、講演、行政資料等で日林誌をどのように使っているのかを募集し、日林誌の使われ方についてお伝えします。

内容

1. 日林誌の現状と課題 長池卓男(日林誌編集委員長)
2. J-STAGE Data を使ってみよう! 北原文章(日林誌 J-STAGE Data 担当編集委員)
3. 日林誌の使われ方 長池卓男

第 136 回日本森林学会大会での関連集会の情報

- | | | | |
|----------------------------|----------|-------------|-----------------------|
| 1. 林業経済学会 2025 春季大会 | 3 月 23 日 | 9:00～17:30 | |
| | | | 学術交流会館小講堂 |
| 2. 森林計画学会 総会・シンポジウム | 3 月 23 日 | 10:00～16:00 | 農学部 N21 講義室 |
| 3. 森林遺伝育種学会 シンポジウム | 3 月 23 日 | 9:30～12:30 | 農学部 N11 講義室 |
| 4. 第 31 回森林昆虫談話会 | 3 月 23 日 | 9:30～12:00 | 農学部 N31 講義室 |
| 5. 集まれ森林水文 2025 | 3 月 23 日 | 9:30～12:30 | 農学部 S12 講義室 |
| 6. 第 25 回森林施業研究会シンポジウム | 3 月 23 日 | 9:15～12:00 | 農学部大講堂 |
| 7. 樹木病害研究会 2025 | 3 月 23 日 | 9:00～12:00 | |
| | | | 農学部 W109 多目的室 |
| 8. 森林利用学会 総会・シンポジウム | 3 月 23 日 | 10:30～16:00 | |
| | | | 学術交流会館第 1 会議室 |
| 9. 森林立地学会シンポジウム | 3 月 23 日 | 8:30～12:30 | |
| | | | 森林総合研究所北海道支所 |
| 10. 森林教育実践研究会 | 3 月 23 日 | 13:00～16:00 | |
| | | | 北海道教育大学アーツ&スポーツ文化複合施設 |
| 11. 森林 GIS フォーラム 学生研究コンテスト | 3 月 21 日 | 17:00～19:30 | 農学部中講堂 |

○託児については、大会期間中関連集会も含めて日本森林学会で用意します。詳細は大会 HP をご覧ください。

1. 林業経済学会 2025 年春季大会

日時： 2025 年 3 月 23 日（日）9:00～18:00

- | | | |
|-------|--------|------------------|
| 09:00 | | 開場 |
| 09:30 | ～12:00 | シンポジウム（報告・コメント） |
| 12:10 | ～13:40 | 昼休憩 |
| 13:40 | ～16:30 | シンポジウム（総合討論） |
| 16:30 | ～17:30 | 定期総会 |
| 18:00 | | 懇親会（会場近隣での開催を予定） |

会場：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北 8 条西 5 丁目）・対面開催

シンポジウム：持続的な自然資本管理に向けて多様化する取り組み

開催趣旨：自然資本の持続的な管理は人類にとって大きな課題となっている。持続的な管理

が十分に達成されていない原因の一つには、そのための枠組みや資金が十分に確保されていないことが挙げられる。特に生物多様性をはじめとする消費的価値を生み出さない部分ではそれが顕著であり、昆明・モンテリオール生物多様性枠組でも資金確保が課題として挙げられている。本シンポジウムでは、まず持続的な自然資本管理について世界的な潮流を把握した上で、問題を理論的にどのように捉えることができるのか、特にこれまでの公共政策によるアプローチの限界について整理を行いたい。その上で、持続的な自然資本管理に向けて多様化する取り組みとして、企業による生物多様性への影響の評価と情報開示の取り組みと、地域および利用者が主導する保護地域管理の取り組みを取り上げ、持続的な自然資本管理に向けた新しい方向性について議論を行いたい。

報告者・コメンテーター・座長：

- ・ 第一報告：栗山浩一氏（京都大学）

「持続的な自然資本管理をめぐる世界的潮流および日本の現状と課題」

- ・ 第二報告：中尾圭志氏・香坂玲氏（東京大学）

「持続的な自然資本管理に向けた企業の情報開示：TNFD 対応の現状と課題」

- ・ 第三報告：愛甲哲也氏・深津幸太郎氏・庄子康氏（北海道大学）

「国立公園における協力金の多様な導入事例にみる利用者負担のあり方について」

- ・ コメンテーター：(調整中)

- ・ 座長：香坂玲氏（東京大学）

大会参加費：一般 1,000 円・学生無料

懇親会：2025年3月23日（日）18時開始予定

- ・ 場所：カフェ de ごはん（学術交流会館となり）

・ 参加費：未定（懇親会参加費については、林業経済学会のHP、メールマガジンなどで改めてお知らせします。

2. 森林計画学会総会

日時：2025年3月23日（日） 10:00～12:00

会場：北海道大学農学部 N21 講義室

内容：今年度の活動・決算報告、次年度の活動報告・予算の審議

森林計画学会各賞の授賞式および受賞者講演

森林計画学会春季シンポジウム

日時：2025年3月23日 13:30～16:00

会場：北海道大学農学部 N21 講義室

タイトル：「新たな」森林資源解析から「一般的な」森林資源解析へ

概要：

新たな森林計測技術が開発され、情報の解像度や取得容易性が大きく変わろうとしている。様々な計測データ、それらを用いた様々な資源解析手法が提案される中で、これから「一般的な」技術として普及していくために必要な指針について議論する必要がある。そのためには、特定の技術をスタンダードとするのではなく、どのようなニーズに対して、どのような解像度で、どのような精度で資源情報を提供できるのかを整理しなければならない。昨年度の春季シンポジウムおよび今年度の夏季セミナーにおいて、森林計測および解析技術について技術史を振り返るとともに、あらたな計測・解析技術の社会実装について議論を深めてきた。これまでの議論を背景にして、「新たな」技術から「一般的な」技術への転換に対して研究者コミュニティとしてどのように対応するのか、話題提供をもとに議論する。

話題提供：調整中

連絡先：北原文章 bunsho@ffpri.affrc.go.jp

3. 森林遺伝育種学会 シンポジウム

シンポジウムテーマ：各都道府県における林木育種・育苗のフロントライン

日時：2025年3月23日（日）9:30～12:30

会場：北海道大学農学部 N11 講義室

連絡先：玉木一郎，〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1, 岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター，E-mail: tamaki.ichiro.z9@f.gifu-u.ac.jp

内容：

各都道府県の林業試験場（公設林試）は、地域独自の課題や要望に向き合い、ユニークな林木育種・育苗に取り組んでいる。森林遺伝育種学会では、学会誌で2015年から2020年にかけて、シリーズ「各都道府県の林業・林産業と遺伝育種との関わり」を連載し、30都道府県の林木育種・育苗に関する研究や事業を紹介した。2022年には10周年記念出版の形で、同シリーズ記事を取りまとめた冊子体も出版された。これらの記事の掲載から、古いものでは10年近くが経過した。その間に、技術の進歩や社会情勢の変化、コロナ禍など、林木育種・育苗を取り巻く状況は日々変化し、現在では新たな課題や要望も生まれている。例えば、今やコンテナ苗は種苗生産の5割を占めるようになった。コロナ禍ではコンテナ苗の主要な培地であるココピートの輸入が一時停止となる事態が発生した。九州では土を使わないミスト散水による画期的な「エアざし®」が開発された。本シンポジウムでは、各都道府県における林木育種・育苗に関する最新の取り組みを紹介・共有することで、当該地域にとどまらない技術の展開や新たなアイデアの創出につなげる場としたい。

話題提供

1. 石塚 航（北海道立総合研究機構）・津山幾太郎（森林総合研究所北海道支所）
「これからの育種へトマツの適応的変異をいかに組み込むか」
2. 宮下智弘（山形県森林研究研修センター）
「山形県における耐雪性スギと抵抗性クロマツの開発に向けた取り組み」
3. 奈良雅代（東京都農林総合研究センター）
「ミニチュア採種園における種子増産を目指して」
4. 斎藤真己（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）
「スギ花粉をビジネスに！ 一舌下免疫療法用の効率的なスギ花粉採取技術の確立に向けて」
5. 陶山大志（島根県中山間地域研究センター）
「島根県におけるコンテナ苗の育苗研究とその普及の取り組み ～容器種類・施肥技術・培地・病虫害対策を中心に～」
6. 江島 淳（佐賀県林業試験場）
「サガンスギ普及のための研究デザイン」

4. 第31回森林昆虫談話会

テーマ：森林昆虫研究の発展にむけて その3

日時：2025年3月23日（日） 9:30～12:00

会場：北海道大学農学部 N31 講義室

連絡先：衣浦晴生（森林総合研究所）E-mail: kinuura<アットマーク>ffpri.affrc.go.jp

<内容>

「森林昆虫研究」と言ってもその研究は多岐にわたる。対象となる種としては、食葉性、穿孔性など直接樹木と関係の深い昆虫から、単に森林という環境で生活する種まで、ありとあらゆる昆虫が含まれる。また研究内容としては、基礎科学的研究から林業や環境に直接資する応用研究までを包括しており、非常に奥の深い研究分野である。

今回は、リーフマイナー（潜葉虫）に関する研究、森林・林業病虫害の防除に関する研究に取り組む2名の研究者より話題提供していただき、森林昆虫研究についてじっくり議論する。

<話題提供>

1. 「リーフマイナーの行動生態学－生態学的意義から防除まで」
綾部 慈子（森林総合研究所東北支所）
2. 「県林試で取り組む森林・林業病虫害の防除対策に向けた研究」
片桐 奈々（岐阜県森林研究所）

世話人：衣浦晴生（森林総合研究所）・土岐和多瑠（名古屋大学）

☆ 3月22日夜に懇親会を予定しています。

5. 集まれ森林水文 2025

テーマ：森林水文といえば流出だ！

日時：2025年3月23日（日） 9:30～12:30

会場：北海道大学農学部 S12 講義室

内容：

森林水文に関する研究の情報交換を行います。どなたでもご参加いただけます。今回は流出をテーマに、観測方法のノウハウを共有すると共に、最近出版された論文紹介も行います。ポップアップでは、現在取り組んでいる研究や取り組み（森林水文全般）について、参加者に短い時間で紹介してもらいます。

プログラム：

1. 流出観測のいろは

1-1. 勝山正則（京都府立大学）

「測り続けて53年 ー長期流量観測の意義と役割(と言うか、なんか意味あるの?)ー」

1-2. 長坂 有（北海道立総合研究機構 林業試験場）

「安価で簡易?な量水堰の作り方」

1-3. 浅野友子（東京大学）

「山地河川での大雨時の流出観測」

2. 最新の水文研究紹介ー流出研究を中心にー

2-1. 岩崎健太（森林総合研究所）

「熱赤外動画を用いた湧水踏査：一日の調査で地下水流出の特徴をつかむ」

2-2. 井手淳一郎（千歳科学技術大学）

「北方冷温帯林において植生が出水時のリン流出に及ぼす影響について」

2-3. 桂 真也（北海道大学）

「凝灰角礫岩山地源流域における様々な風化度を示す基岩層の飽和透水係数及び水分特性曲線」

2-4. 小柳賢太（ボルツァーノ自由大学）

「風倒木、撤去して大丈夫?イタリアアルプスの流出観測から得られた知見」

2-5. 小田智基（森林総合研究所）

「森林流域における流域間地下水流動のスケール依存性：日本における複数流域の水収支観測データの解析」

3. ポップアップ

企画者：

篠原慶規（宮崎大学），井手淳一郎（千歳科学技術大学），佐藤貴紀（東京農業大学），玉井幸治（森林総合研究所），久米朋宣（九州大学），五味高志（名古屋大学）

申し込み：

当日参加も歓迎ですが、ポップアップでの発表及び懇親会（3/22 夜）の参加希望者は事前申し込みをお願いします。（3/10 締切） <https://forms.gle/8GXJAiQTtezozY8A>

6. 第25回森林施業研究会シンポジウム

テーマ：「シカ害をどこまで容認するか？ーニホンジカが棲む森林で行う林業のあり方ー」

日時：2025年3月23日（日） 9：15～12：00

会場：北海道大学農学部大講堂

申込方法：参加申込・参加費は不要

連絡先：櫃間岳（森林総合研究所）：[hitsuma\(アットマーク\)affrc.go.jp](mailto:hitsuma@affrc.go.jp)

趣旨

シカによる被害が常態化した現状で、シカを完全に排除して森林を形成しようとする計画はナンセンスである。現状を容認しながら、シカが居る中での森林施業はどうあるべきかを「生態面」ではなく経営を考慮した「施業論」で論じる。

近年の森林林業施策では、エリートツリーや機械化による生産性の向上などで林業の低コスト化に取り組み、「儲かる林業」への指向を高めている。ただし現在の「儲かる林業」では、増え続ける獣害対策にかかるコストは計算されておらず、それが支障となって森林整備が進まないとの声も多い。戦後復興から拡大造林を行ってきた時代まではシカの棲息域が限定的であり、獣害対策がわずかでも造林が可能だった。しかしシカの密度が高まり、かつ資源（予算や人材）が限られた状況下で伐採・再造林を進めていく際には、シカによる被害を前提として森林整備を進めなければならない。具体的な処方箋を示すことは難しいが、どこにどのような資源を投じて対策を施すか（どの程度は被害を容認するか）、現実的な解を模索することが重要である。

本シンポジウムでは、シカ被害がある中での再造林施策を見てきた北海道・本州・九州の3地域の研究者から報告を受け、全国各地から参加される問題意識を持った皆様との意見交換をすすめながら、今後のあるべき姿を探りたい。

話題提供

1) 「被害レベルに応じた造林地でのシカ被害対策」

山川博美氏（森林総合研究所九州支所）

2) 「植栽から主伐までのエゾシカ被害と対策」

明石信廣氏（北海道立総合研究機構林業試験場）

3) 「シカのいるところでの主伐を考える」

長池卓男氏（山梨県森林総合研究所）

7. 樹木病害研究会 2025

テーマ：気候変動と病害

日時：2025年3月23日（日）9:00～12:00

会場：北海道大学農学部 W109 多目的室

内容：

2023年に北海道の道南地域で初めてナラ枯れが確認され、被害の拡大が懸念されているが、その発生要因の一つとして温暖化が挙げられている。温暖化を含む気候変動が病害に及ぼす影響は、気温上昇による病原菌や媒介者の分布拡大だけでなく、降雨量の変化による発生リスクの上昇や発生時期の変化など複数の要因が考えられ、従来とは異なる対策が必要となることも予想される。今年の樹木病害研究会では、3名の講演者に気候変動と病害に関する話題をご提供いただき、気候変動により懸念される課題と解決策について議論し、理解を深める機会としたい。

講演者・演題：

1. 升屋勇人（森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域）「樹木疫病と気候変動」
2. 服部友香子（森林総合研究所きのこ・森林微生物研究領域）「森林病害と気候変動」
3. 鳥居正人（森林総合研究所東北支所）「木材腐朽と気候変動」

連絡先：高橋由紀子（森林総合研究所） ytakah@ffpri.affrc.go.jp、楠本大（東京大学大学院農学生命科学研究科） kusumoto@uf.a.u-tokyo.ac.jp、石原誠（森林総合研究所九州支所） makolin@ffpri.affrc.go.jp

8. 森林利用学会 総会・シンポジウム

日時：2025年3月23日（日）総会 10:30～12:00

シンポジウム 13:00～16:00

会場：北海道大学学術交流会館第1会議室

シンポジウムテーマ：スマート林業の現場実装の加速に向けた課題

連絡先：森林利用学会事務局 〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学森林利用学研究室内 E-mail：jfes-office@jfes.jp

9. 森林立地学会現地研究会

テーマ：森林総研羊ヶ丘実験林の長期試験観測研究

日時：2025年3月23日（日） 8:30～12:30

場所：森林総合研究所北海道支所（北海道札幌市）

定員：20名程度（要事前登録・参加費無料）

集合・解散：森林総合研究所北海道支所標本館（バス等でお越しください）

申込方法：2025年1月末頃を目途に森林立地学会ホームページに掲示

その他：雨具・長靴を各自用意（雨天決行・荒天中止）

内容：

今回の現地研究会は、移転50周年を迎えた森林総合研究所羊ヶ丘実験林で開催します。羊ヶ丘実験林では、北海道に生育する樹木や自然環境を対象に、開設以来、様々な試験研究が行われてきました。今回の現地研究会では、50年間毎年施肥を続けてきた人工林における樹木成長や土壌への影響、25年に及ぶタワーフラックス観測による天然生林の樹木動態と炭素吸収量の関係、35年前に始められた酸性雨研究について、実際の現場をみながら成果の紹介を行います。残雪の実験林を巡り、北海道ならではの生態系や環境を学べる貴重な機会となります。

コーディネーター：今村直広（森林総研北海道支所）

講師（予定）：相澤州平（森林総研）、伊藤江利子（森林総研関西支所）、溝口康子（森林総研北海道支所）

10. 第1回森林教育実践研究会

タイトル：森林教育の活動の様子を聞いてみよう

日時：2025年3月23日（日）13:00～16:00

会場：北海道教育大学アーツ&スポーツ文化複合施設

（札幌市中央区北1条東2丁目4番地札幌軟石蔵）

<https://i-campus.hokkyodai.ac.jp/hug/>

参加：無料（日本森林学会会員以外の方もご参加いただけます）

開催趣旨

日本森林学会では、森林教育や木育に関する研究発表が行われています。森林教育は、持続可能な社会をめざしたSDGsや、よりよく生きるためのウェルビーイングに関連するなどで、注目を集めています。教育学との境界領域では、環境教育や野外教育、学校教育の各種教科教育、幼児教育など幅広い分野と関連しています。昨年は、書籍『自然と共に生きる森

林教育学』(2024)が刊行され、学問の進展が図られるところです。

今回、書籍の内容に関連して、多様な森林教育の活動の様子を実践者の方から伺う機会を設けました。オンラインも併用します。多くの方のご参加をお待ちしています。

プログラム

司会・コーディネーター：山田亮（北海道教育大学岩見沢校）

趣旨説明：杉浦克明（日本大学生物資源科学部）

講演1：「博物館における高齢者と協働する地域学習の取り組み」

青柳かつら氏（北海道博物館）

講演2：「学校林実習を柱とした帯広農業高校の森林・林業教育」

今井直樹氏（北海道帯広農業高等学校森林科学科）

講演3：「図工の時間から広げる森林林業への関心～地域材を活用した小4図工木工キットの製作と展開～」

上田 剛氏（札幌市みどりの管理課）

講演4：「三重県のめざす森林教育」

本田美香氏（三重県林業研究所）・服部真一氏（松阪市立德和小学校）

講演5：「ふるさとの森づくりとこれからの教育」

池田貴彦氏（学校法人リズム学園恵庭幼稚園）

コメンテーター：井上真理子（森林総合研究所多摩森林科学園）

申込：こちらのフォームから→<https://forms.gle/vVGf6zsv1jMpQY7ZA>

または、杉浦のアドレス（下記）にお申し込みください。

[sugiura.katsuaki\[at\]nihon-u.ac.jp](mailto:sugiura.katsuaki[at]nihon-u.ac.jp) [at]を@にしてください。

申込締切：2025年3月17日（月）17：00まで



企画担当：山田亮、杉浦克明、井上真理子

11. 森林 GIS フォーラム 学生研究コンテスト

テーマ：GIS を活用した研究を行う学生の育成と交流

日時：2025年3月21日（金）17:00～19:00（申込状況によっては短縮）

会場：北海道大学農学部中講堂

申込方法：聴講は申込不要。発表は森林 GIS フォーラムより別途募集

連絡先：森林 GIS フォーラム事務局企画担当山啓介（岩手大学） [toyama\(at\)iwate-u.ac.jp](mailto:toyama(at)iwate-u.ac.jp)

ウェブサイト：<https://fgis.jp/>

内容：

森林 GIS フォーラムでは、次世代の森林 GIS を担う学生の育成と交流の場として、学生研究コンテストを開催しています。

森林・林業分野における空間情報 (GIS・GNSS 等)、新たな計測技術 (写真・レーザー等) の応用に関わる研究を行っている学生に研究紹介をしていただき、優秀賞の表彰などを行います。